



世界につながる日本の中央回廊



二五〇万流域都市圏の創造

序 章 はじめに	1
第1章 三遠南信地域連携ビジョンの目的	3
1-1 地域連携ビジョンの目的	
1-2 地域連携ビジョンの目標期間	
1-3 地域連携ビジョンの策定体制	
第2章 三遠南信地域のポテンシャル	6
2-1 広域的な位置づけ	
2-2 天竜川・豊川流域圏の自然と伝統文化	
2-3 暮らしと環境	
2-4 産業の集積	
2-5 基盤整備の進展	
2-6 県境を越える連携活動	
2-7 地域連携ビジョンを策定する上での課題	
第3章 三遠南信地域の目指すべき地域像	23
3-1 三遠南信地域連携ビジョンのテーマ	
3-2 三遠南信地域連携ビジョンの地域像	
3-3 三遠南信地域の地域構造	
第4章 地域連携事業の方針と事業イメージ	29
4-1 連携事業の政策体系	
4-2 個別政策の推進方針	
第5章 重点プロジェクト	40
5-1 重点プロジェクトの構成	
5-2 個別プロジェクトの推進方針	
5-3 連携事業を支援するプロジェクト	
第6章 三遠南信地域連携ビジョンの推進体制	52
6-1 組織体制	
6-2 三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENAセナ）の役割	
6-3 新・連携組織への移行	
6-4 推進体制のスケジュール	
第7章 検討委員会名簿	54
年 表 三遠南信のあゆみ	56
データ 三遠南信地域の基礎データ	57
用語解説	58



序章

はじめに

三遠南信地域は、愛知県東部の東三河地域、静岡県西部の遠州地域、長野県南部の南信州地域からなる3県の県境地域です（図表1）。

天竜川や豊川など中央構造線の川筋・谷筋に沿って、「塩の道」を行き交う人々が、古くから海と山との交流を育み、民俗芸能をはじめとする特色ある文化や人・もの・情報のネットワークを形成してきました。また、昭和初期には、飯田線の前身である三信鉄道などが整備され、三遠南信地域の連携が大いに深まりました。

今日、三遠南信地域は、人口230万人、工業出荷額も13兆円を超え、圏域に広がる豊かな経済資源や多様な自然環境、特色ある歴史・文化などは、都道府県をも上回る大きなポテンシャルを有しています。

また、地域の骨格となる三遠南信自動車道や第二東名高速道路の整備が着実に進められ、三遠南信地域の一体的な振興発展を支える高度な社会基盤が整いつつあります。

一方、地方分権の流れの中で、平成の大合併により圏域の市町村も大きく再編されました。また、道州制の議論が活発化するとともに、国土形成計画の策定が全国を8つに分けた地方ブロック単位で進められるなど、県境を越えた広域的な地域づくりの検討が進められています。

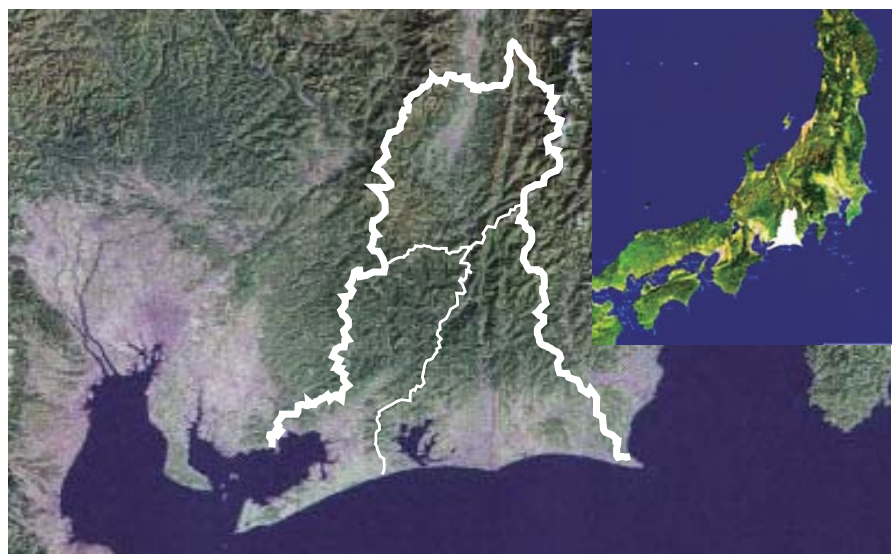
三遠南信地域においても、自らの発展の方向性を明確に示すとともに、県境を越えた連携により、圏域を一体として、自立性の高い地域をつくり上げることが急務となっています。

こうした状況の中、地域住民をはじめ、大学、経済界、行政など、圏域の発展を願う様々な関係者が力を合わせ、ここに「三遠南信地域連携ビジョン」を策定しました。

この地域連携ビジョンでは、地域の将来像を「三遠南信250万流域都市圏の創造」としました。東三河、遠州、南信州地域をエリアとする一体的な都市圏として、行政、経済、住民活動など様々な分野の交流・連携を一層深め、自立性の高い確固たる圏域を形成するとともに、そのポテンシャルを更に高め、中部圏のみならず我が国の持続的な発展においても積極的かつ重要な役割を果たしていきたいと考えております。

三遠南信地域で活躍するそれぞれの主体が、本連携ビジョンを共有し、三遠南信に対する思いと活動のベクトルを一致させることにより、相乗効果を発揮し、地域の振興発展を加速させていくことを期待しています。

圏域の皆様には、「三遠南信地域連携ビジョン」にご理解をいただきますとともに、ビジョン推進に積極的なご参加をお願い申し上げます。



■図表1 愛知・静岡・長野県境地域（三遠南信地域）



■図表 2 三遠南信地域を構成する市町村（平成 20 年 3 月現在）



第1章

三遠南信地域連携ビジョンの目的

1-1 地域連携ビジョンの目的

三遠南信地域連携ビジョンを策定するに当たって以下の5つの目的があります。

1 道州制や国土形成計画など県境を越える地域づくり制度へのアピール

現在、国においては、道州制や国土形成計画など、県境を越えた広域的な地域づくりのあり方が検討されています。

道州制においては、平成18年2月に第28次地方制度調査会の「道州制のあり方に関する答申」により、愛知、静岡、岐阜、三重の東海4県を同じ道州とし、長野県は別の道州に区分した三遠南信地域を分断する区域例が提示されました。これを受け、平成18年秋の「三遠南信サミット in 東三河」において、三遠南信地域を分割することなく、一つの道州になることを求める決議を全会一致で採択しました。

一方、国土形成計画においては、愛知、静岡、長野、岐阜、三重の5県を一つの地方ブロック単位として、中部圏広域地方計画協議会を設置し、国と地方の協働によるビジョンづくりが進められています。

こうした国の地域づくり制度に対し、今後においても、三遠南信地域は、県境を越える連携を進め、地理的、歴史的に深い絆のもとに結びつく自立的な圏域であることを内外に主張していく必要があります。

2 経済活動のグローバル化に対応した県境を越える産業競争力の強化

三遠南信地域は、輸送用機器をはじめ、機械、電子、光技術などの産業が高度に集積し、全国でも有数の経済活力を持った地域として発展してきました。しかしながら、経済活動のグローバル化や地域間競争の激化は、本圏域の産業にも大きな影響を与えることが懸念され、産業構造の変化等も視野に入れた、生産や研究開発、物流等における一層の機能強化が必要です。

そして、経済活動のグローバル化に対応するためには、市町村個々の産業振興施策では限界があり、また、県境によって産業活動の情報が滞るなどの課題も生じていることから、より広域的で、経済活動の実態に合った対応が求められます。

これまでも本圏域では、自治体や経済界による広域的な連携活動が実施されてきましたが、こうした連携基盤を一層強化するとともに、多様な産業資源を有効に活用し、地域の産業競争力を高める戦略的プロジェクトが必要です。

3 市町村合併による地域構造の変化に対応した広域行政の推進

平成の大合併により、三遠南信地域の市町村も大きく再編され、本圏域の地域構造は大きく変化しました。

特に、遠州地域の拠点都市である浜松市は、全国有数の大規模な合併により、全国で16番目の政令指定都市に移行し、東三河地域の拠点都市である中核市・豊橋市、南信州地域の拠点都市である飯田市と県境を挟んで隣接することになりました。市町村の再編により、行政ニーズや隣接する自治体との関係も大きく変化しています。

また、地方分権の時代を迎え、地域住民に最も身近な基礎自治体である市町村には、複雑化する行政課題や住民サービスの多様化・高度化に対して、自己責任による総合的な政策対応がこれまで以上に求められています。一方、行財政改革や効率的な行政経営に対する要請も高まっていることから、隣接自治体との連携・補完による対応がますます重要となっており、県境連携を含む広域行政を積極的に推進する必要があります。

4 地域連携活動の相乗効果の発揮

三遠南信地域における地域連携活動は、地域住民、大学、経済界、行政など、それぞれの主体において個別に展開されてきました。行政では、三遠南信地域交流ネットワーク会議や三遠南信地域整備連絡会議を組織し、行政相互の連携・協力関係を構築し、また、経済界では、三遠南信地域経済開発協議会を組織し、三遠南信バイタライゼーションなど、県境を越えた産業連携に取り組んでいます。一方、住民団体も、三遠南信サミットにおいて地域住民セッションを開催し、県境を越えたプラットホームづくりを目指すなど新たな連携活動を手がけています。

しかしながら、三遠南信地域には、各主体が共有できる明確な目標が存在しなかったため、それぞれの主体が連携を図ることなく、個別に活動を展開してきたところがあります。

こうしたことから、本圏域において、地域づくりのビジョンを定めることによって、様々な主体による地域づくり活動のベクトルを合わせ、相乗効果を発揮させることが必要です。

5 県境を越えた社会基盤を活かした地域づくり

広大な面積を有する三遠南信地域において、人やものの動きを活発化させ、産業活動や交流人口を拡大させるためには、県境を越え、地域間を結ぶ骨格となる道路整備が大変重要です。現在、三遠南信自動車道、第二東名高速道路などの整備が着実に進められており、数年のうちに順次部分供用が始まることから、これらの社会基盤を活用した地域づくりに着手していくことが必要です。

また、三遠南信地域内の企業を対象とした調査でも、三遠南信地域内の事業連携を期待する比率も高いことから、将来の社会資本整備を見越していく中で、供用が想定される道路や港湾など社会基盤を活かした地域づくりの方向性を示していくことが必要です。

1-2 地域連携ビジョンの目標期間

目標期間＝概ね 10 年間

三遠南信地域連携ビジョンの目標期間は、概ね 10 年間とし、三遠南信地域の目指すべき将来像と連携事業の方針を定めます。

1-3 地域連携ビジョンの策定体制

三遠南信地域連携ビジョンは、三遠南信地域連携ビジョン検討委員会において素案を策定し、三遠南信サミットで合意します。

○三遠南信サミット

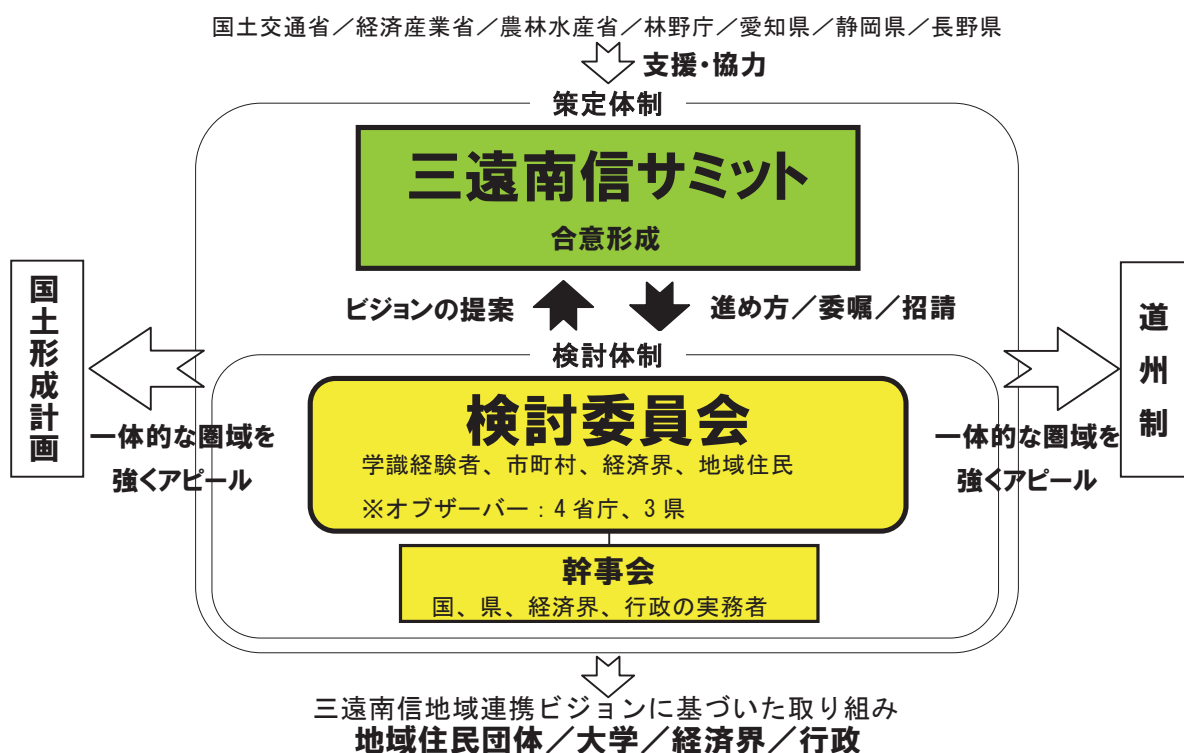
三遠南信地域の市町村長をはじめ、市町村議会、経済団体の代表、地域住民、国、県の機関などを一堂に集め、平成 5 年度以来、毎年 1 回開催しています。この場で三遠南信地域連携ビジョンを審議し、合意します。

○三遠南信地域連携ビジョン検討委員会

地域住民、大学、経済界、行政の代表で組織し、オブザーバーである国、県の意見を反映しながら、各主体が共有できる三遠南信地域連携ビジョンの素案を策定し、三遠南信サミットへ提案します。

○幹事会

三遠南信地域の行政、経済界、国、県の実務者レベルで組織し、検討委員会の審議に向けて、関係者間の調整を行います。



■図表 1-1 三遠南信地域連携ビジョン策定の進め方



第2章

三遠南信地域のポテンシャル

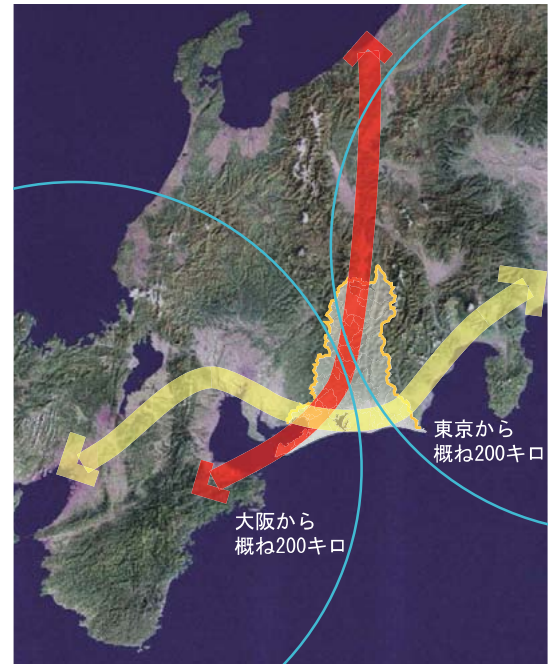
2-1 広域的な位置づけ

1. 国土軸が交差する文化・経済交流地域

①文化・経済の交流地域

三遠南信地域は、東京と大阪から 200 km と、東海道のほぼ中央に位置しています。また、中央構造線によって形成される川筋、谷筋に沿って、古くから南北方向に人、もの、情報の交流が盛んな地域でした。このルートは、太平洋や日本海から山間地へ生活に欠かせない塩を運んだことから「塩の道」と呼ばれていました。

このように、三遠南信地域は、東西軸である東海道と南北軸の「塩の道」が交わる国土軸の交差地域となっており、太平洋と日本海の文化・経済が交流する拠点となることが期待されます。



■図表 2-1 三遠南信地域の広域的な位置づけ

②都道府県に匹敵する経済規模

三遠南信地域の製造品出荷額等は、約 13 兆円（中部圏の約 18%）であり、都道府県順位で見ても全国 6 位の兵庫県よりも大きな規模です。農業産出額も 3 千億円を上回り、全国 7 位の熊本県よりも大きな規模です。

また、事業所数（民営のみ）は、約 10.6 万事業所、年間商品販売額も約 5.9 兆円の規模を持ち、いずれも都道府県順位で中位の経済規模があります。

こうした都道府県に匹敵する地域産業の集積を活かし、生産技術や生産品の付加価値の向上によって産業競争力の一層の強化が期待されます。

指標	順位	県名	規模	全国シェア (%)
事業所数※	17位	宮城県	107,565 事業所	1.8
		三遠南信	105,875 事業所	1.8
	18位	群馬県	101,876 事業所	1.7
製造品出荷額等	5位	埼玉県	138,021 億円	4.9
		三遠南信	137,974 億円	4.9
	6位	兵庫県	134,778 億円	4.7
年間商品販売額	17位	群馬県	60,455 億円	1.1
		三遠南信	58,822 億円	1.1
	18位	栃木県	54,723 億円	1.0
農業産出額	6位	愛知県	3,108 億円	3.6
		三遠南信	3,084 億円	3.6
	7位	熊本県	2,984 億円	3.5

※事業所数は事業内容等不詳事業所を含む

■図表 2-2 三遠南信地域の経済規模

出典：事業所数は平成 16 年事業所統計、製造品出荷額は平成 17 年工業統計表、年間商品販売額は平成 16 年商業統計、農業産出額は平成 18 年生産農業所得統計より作成

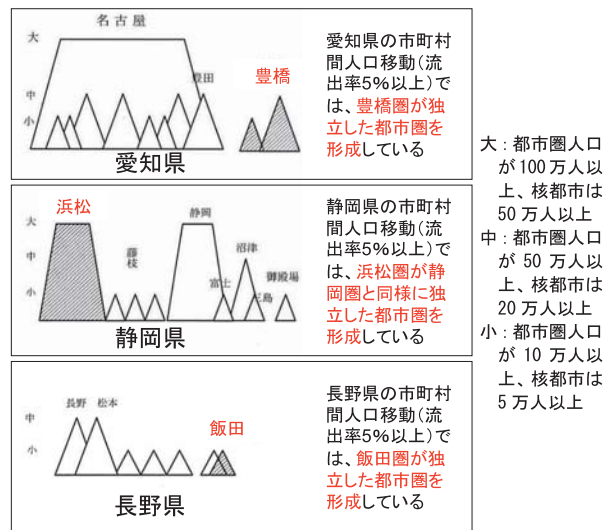
2. 中部圏における拠点都市圏

①自立的な人口 230 万人の圏域

三遠南信地域の人口は、約 230 万人であり、中部圏全体の約 13%を占めています。また、豊橋市、浜松市、飯田市が地域全体人口の約 6 割を占め、各地域の拠点都市となっています。

通勤による人口移動を見ると、豊橋市は愛知県において名古屋都市圏から独立して都市圏を形成しています。同様に、浜松市は静岡県において、飯田市は長野県において、各々拠点的な都市圏を作っています。

このように、3 地域の独立した都市圏が、県境を越えて連携し、中部圏の中で自立した拠点都市圏を築くことにより、大きな可能性が見えてきます。



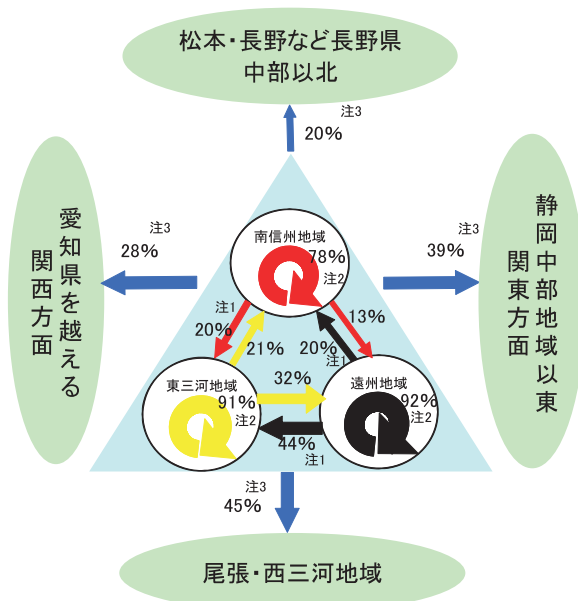
■図表 2-3 三遠南信地域の都市圏構造

出典：平成 12 年国勢調査を利用して豊橋技術科学大学資料より作成

②首都圏・近畿圏・北陸圏との接点

三遠南信地域において、東三河地域は渥美半島を介して近畿圏と、遠州地域は首都圏と、南信地域は北陸圏と地理的に深いつながりを持ちます。企業の取引実態を調べてみても、三遠南信地域は、高い割合で、首都圏、近畿圏、北陸圏と取引を交わしています。

また、当然、圏域内においても高い取引実績があり、より一層の産業連携により拠点性を高め、広範囲に及ぶ東西・南北方向の連携実態を活かすことにより、インターブロックとしての役割が期待できます。



■図表 2-4 三遠南信立地企業の取引実態

出典：平成 17 年度三遠南信自動車道早期完成に向けてのアンケート調査より作成

- 注記
1. 三遠南信地域内の取引企業割合（遠州地域の場合）
三遠南信他地域企業との取引企業数／遠州地域企業の取引企業数合計
 2. 円の中の数字は自地域内の取引割合
 3. 三遠南信地域と他地域の取引割合
他地域企業との取引企業数／三遠南信地域企業の取引企業数合計
 4. 取引とは、販売、受注、仕入、発注を指す

2-2 天竜川・豊川流域圏の自然と伝統文化

1. 自然環境の保全と活用

①天竜川・豊川流域圏が持つ豊かな自然環境

三遠南信地域は、中央部に天竜川が流れ、その東西には3千m級の中央アルプス、南アルプスが連なり、険しい山岳地形と豊かな森林を形成しています。また、天竜川、豊川の中下流域には、三角州、扇状地の平地が広がり、汽水湖の浜名湖、遠浅の三河湾、天竜川の水が注ぐ遠州灘には広大な砂丘があり、多様な自然環境と生態系を有しています。

また、天竜川上流域に広がる高原的な気候から、常春と言われる渥美半島の温暖な気候まで、気候風土も多様性に富んでいます。

こうした豊かな自然環境や多様な生態系を持つ上流域から下流域までの「流域圏」を一つのまとまりのある循環系として、将来にわたり持続させていくことが重要です。

②自然環境の保全とエネルギー開発

三遠南信地域では、天竜川・遠州灘沿岸の土砂問題（ダム堆砂、海岸侵食）への取り組みをはじめ、三河湾では人工干潟等の造成による海域環境創造事業（シーブルー事業）、浜名湖においては浜名湖浄化技術実証実験等が行われています。

また、地域の自然環境の保全を目的とした住民活動も県境を越えた連携が積極的に進められています。

一方で、強い季節風を活用した風力発電や、太陽光発電、間伐材を活用したバイオマスエネルギーなど、地域特有の自然環境を活かしたエネルギー開発も進んでいます。

自然エネルギーは、新エネルギーとして期待されていますが、開発に当たっては、貴重な自然環境への配慮が求められています。

こうした中、三遠南信地域における自然環境の活用と保全のバランスを図ることが重要です。



■図表 2-5 自然環境の維持・保全活動と風力エネルギー開発の状況

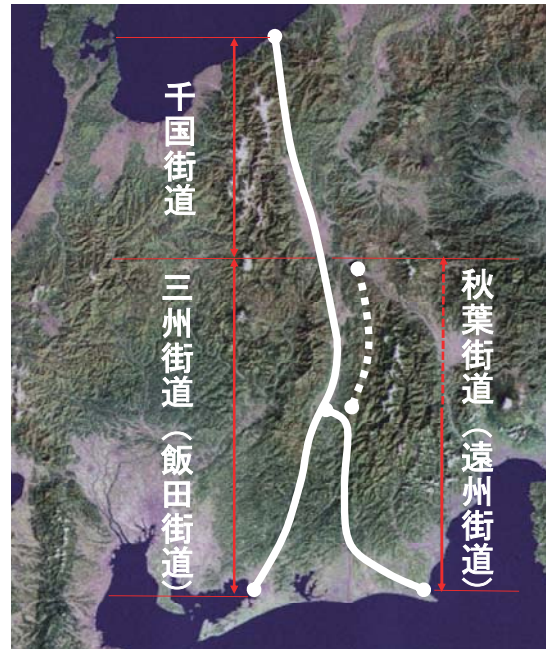
2. 民俗芸能の宝庫

①「塩の道」による文化圏

三遠南信地域には、徳川家康や武田信玄など、戦国時代を代表する武将が戦いを繰り広げた城跡や合戦場が史跡として数多く残っています。また、日本の東西交易の軸である東海道や中山道に対し、南北交易の軸である「塩の道」を形成した地域です。

三州街道（飯田街道）、秋葉街道（遠州街道）は「塩の道」と呼ばれ、海岸と内陸を結び、人や物資の交流を活発化させ、特徴ある文化圏の醸成に大きく寄与してきました。しかしながら、今日では、自動車交通の普及等によって、こうした古くからの交流の形が失われつつあります。

このため、南北交流の必要性をしっかりと認識し、21世紀にふさわしい新たな「塩の道」による文化圏を形成するよう、より一層の連携活動を進めていくことが重要です。



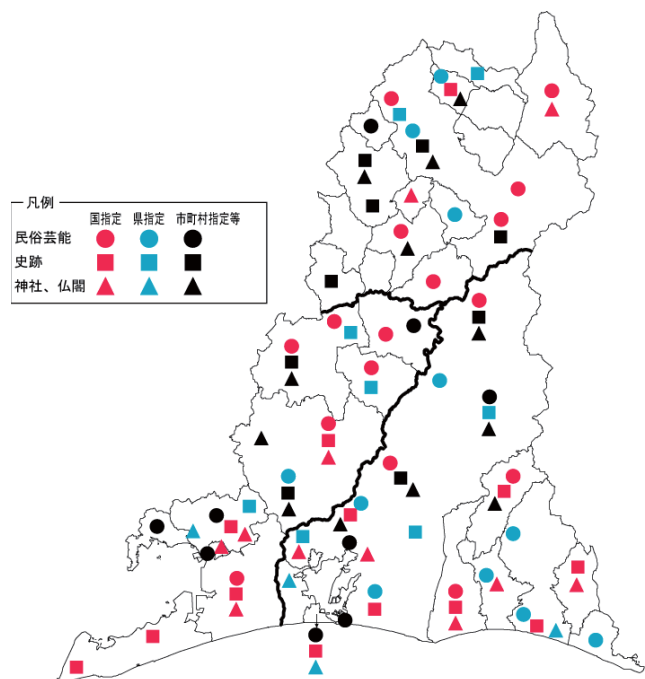
■図表 2-6 「塩の道」イメージルート

②民俗芸能の宝庫

三遠南信地域では、「塩の道」による文化の往来が、神楽や田楽等を中心とした文化を開花させ、「奥三河・北遠の花祭り」、「遠山霜月祭」、「西浦田楽」等の貴重な特徴的な民俗芸能が伝承されています。また、こうした民俗芸能は、国や県の重要無形文化財に指定され、民俗芸能の宝庫として高く評価されています。

しかしながら、こうした特色ある民俗芸能の担い手が、過疎化や少子化等によって減少しており、一部には休止せざるを得なくなった祭礼もあります。

こうした貴重な民俗芸能を将来に継承するため、対外的なアピールや観光面との組み合わせなど、新たな価値づくりを広域的に進めていくことが重要です。



■図表 2-7 民俗芸能、史跡等の分布
出典：平成3年国土総合開発事業調整費調査等より作成

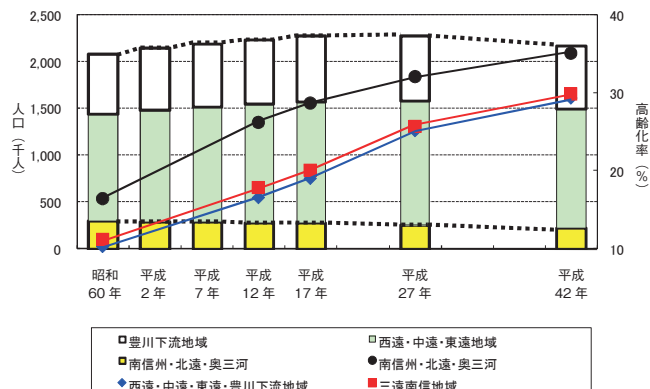
1. 都市地域と中山間地域の融合

①都市人口の増加と中山間地域人口の減少

三遠南信地域の人口は、戦後から一貫して漸増しており、圏域全体では平成 27 年までは増加すると予想されています。

しかしながら、平成 17 年のデータでは、圏域全体の 65 歳以上の人口比率約 20%に対し、過疎化の進む奥三河、北遠、南信州の中山間地域では約 29%と高く、平成 42 年には圏域全体で 3 人に 1 人以上、中山間地域では 2 人に 1 人が高齢者となり、地域経済の活力低下が懸念されています。

このため、中山間地域における教育や医療などの生活基盤の整備や、高齢者も安心して生活できる環境づくりが必要です。



■ 図表 2-8 人口と高齢化率の推移

出典：各年の国勢調査、国立社会保障人口問題研究所資料等より作成

注 1：平成 27 年、42 年は推定値

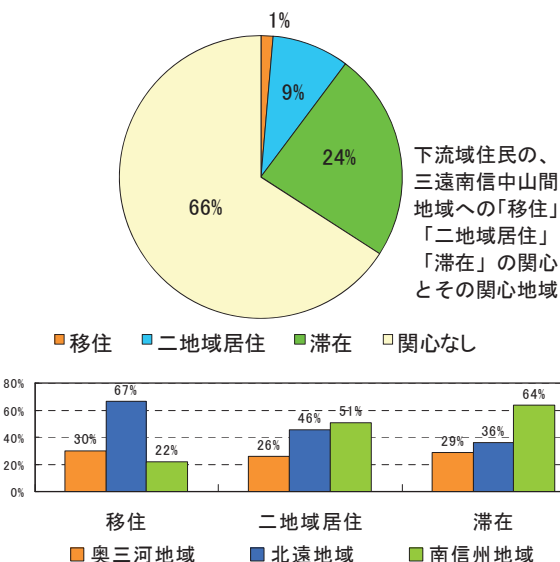
注 2：平成 17 年における旧浜松市と旧北遠地域の人口および高齢化率は、平成 17 年国勢調査の合併前市町村人口を基に算出。

②下流域から上流域への定住指向の高まり

中山間地域では、自然とのふれあいなど、都市では出来ない貴重な体験が可能です。三遠南信地域の下流域の人口は約 200 万人あり、これら都市地域の住民による中山間地域への移住や二地域居住が進めば、地域活性化に大きな可能性を開くことになります。

下流域住民 2 万人を対象としたアンケート結果では、2 割以上が中山間地域での滞在を、1 割が中山間地域に居住地を求めています。

今後は、団塊の世代等を対象とした中山間地域での居住・滞在の受け入れ体制の整備や、医療・生活基盤の充実など、三遠南信地域の特色を活かし上下流域が連携した居住環境の整備などが必要です。



■ 図表 2-9 下流域住民の中山間地域への居住意向

出典：平成 18 年度県境地域連携調査より作成

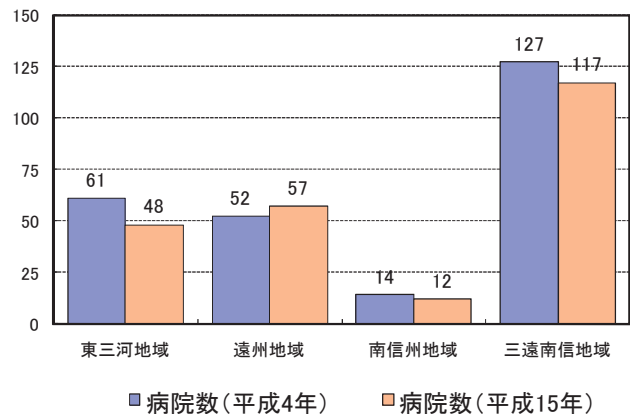
2. 県境を越えた生活圏の形成

①中山間地域の医療機能

三遠南信地域には、医師が恒常的に不足している地域が多くあります。特に、医師臨床研修制度による医師の大都市・大病院への集中や市町村病院の閉鎖による影響が大きく、高齢者の割合の多い中山間地域などにおいて極めて深刻な問題となっています。

また、中山間地域では、高度医療の提供を都市地域に頼らざるを得ず、高度医療を有する病院へのアクセスも大きな課題です。

このため、医療施設の広域利用や、専門医の確保、地元医科大学との連携、ドクターヘリ等の県境を越えた救急医療の充実等を進め、住民が安心できる医療体制が必要です。



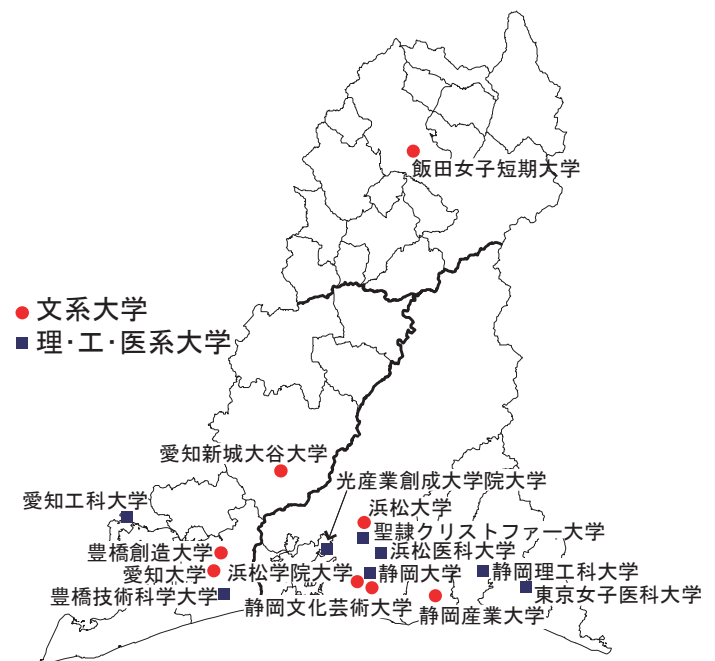
■図表 2-10 三遠南信地域の病院数の変化
出典：愛知県、静岡県、長野県の統計年鑑より作成

②人材の確保と定着

三遠南信地域には、国立大学法人3校、私立大学13校の計16校の大学があります。それぞれに特色を持った大学ですが、大部分は単科系の大学で、一部の大学では単位互換等の大学連携の取り組みも始められています。また、愛知大学・三遠南信地域連携センターや豊橋技術科学大学・地域協働まちづくりリサーチセンターなど三遠南信地域を対象とした地域づくりの研究に取り組む大学付設研究所や飯田市歴史研究所などの地域研究機関も存在しています。

しかしながら、専門性を持った大学卒業生の多くは圏域外に流出しており、人材の安定的な確保が難しくなっています。

このため、人材の地域定着化や、圏域外に流出した人材の三遠南信地域への環流化等について、地域大学間の連携や企業との連携により研究を深める必要があります。

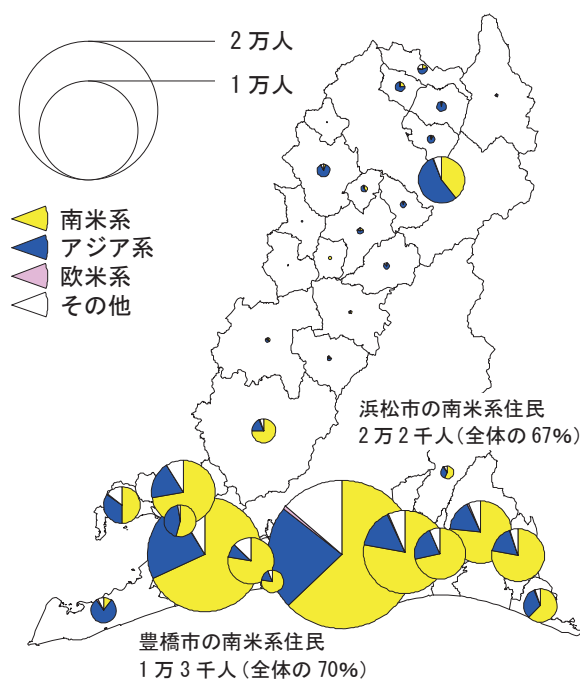


■図表 2-11 三遠南信地域の大学分布
出典：各大学資料より作成

③多文化共生への取り組み

三遠南信地域は南米系住民の割合が高いのが特徴です。特に我が国に居住するブラジル人の約2割（4万1千人）が生活するほか、中国人等多くの外国人が居住しています。こうした外国人の多くは、地域産業等を支える重要な人材となっており、定住化も進んでいます。

このため、日本人と外国人が共生できる地域社会づくりが求められており、特に生活の基礎となる就労や教育等の環境整備が必要です。



■図表 2-12 外国人の居住数

注：図中に記載している浜松市および豊橋市の南米系住民数と全体の割合は平成19年7月末時点の値

出典：平成17年国勢調査より作成

③活力ある産業支援機関

三遠南信地域には、産学官連携の担い手である大学、公設試験研究機関、研究開発支援機関等の産業支援機関があります。特に、三遠南信バイタライゼーション協議会（浜松支部、東三河支部、飯田支部）や、はままつ産業創造センター、(株)サイエンス・クリエイト、（財）飯伊地域地場産業振興センター等は、産学官連携のコーディネートや、起業支援等の重要な役割を担っています。また、大学は技術シーズや知的財産等の提供や、高度な人材を供給する知の拠点として期待されています。

このため、県境を越えた産業支援機関の連携を進め、広域的な研究開発基盤、人材供給基盤等を充実させる必要があります。

		東三河地域	遠州地域	南信州地域
大学	工系	豊橋技術科学大学、愛知工科大学	静岡大学、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、静岡理工科大学等	
	その他	愛知大学、豊橋創造大学、新城大谷大学	静岡文化芸術大学、静岡産業大学、浜松大学、浜松学院大学、聖隷クリストファー大学等	飯田女子短期大学
公設試験研究機関		愛知県（環境調査センター、栽培漁業センター、産業技術研究所三河繊維技術センター、水産試験場、農業総合試験場、森林・林業技術センター）等	静岡県（工業技術研究所浜松工業技術支援センター、農林技術研究所〔茶業研究センター、果樹研究センター、森林・林業研究センター〕、畜産技術研究所中小家畜研究センター、水産技術研究所）等	長野県（南信農業試験場、飯田食肉衛生検査所、飯田家畜保健衛生所）等
産業支援機関		東三河産業創出ネットワーク支援事業推進委員会・三遠南信バイタライゼーション東三河支部（事務局：豊橋商工会議所）、(株)サイエンス・クリエイト、（財）東海産業技術振興財団等	三遠南信バイタライゼーション浜松支部（事務局：浜松商工会議所）、はままつ産業創造センター、（財）浜松地域テクノポリス推進機構、(株)浜名湖国際脳センター等	三遠南信バイタライゼーション飯田支部（事務局：（財）飯伊地域地場産業振興センター）、（財）飯伊地域地場産業振興センター等
地域づくり支援の大学窓口		豊橋技術科学大学（地域協働まちづくりリサーチセンター）、愛知大学（三遠南信地域連携センター、中部地方産業研究所、総合郷土研究所）等	静岡文化芸術大学（文化・芸術研究センター）、静岡大学（生涯学習教育研究センター）等	

■図表 2-15 産業支援機能等の設置状況

2. 豊かな農林水産資源

①全国有数の農業都市

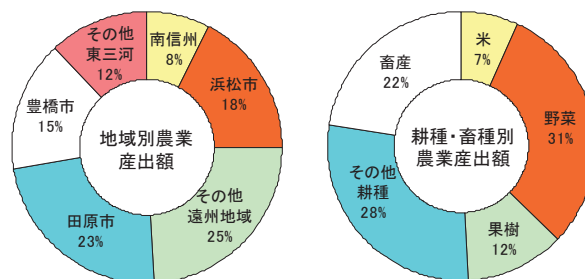
三遠南信地域の農業産出額（平成 18 年）は、約 3,084 億円であり、中部圏（約 1 兆円）の約 3 割を占めています。特に、田原市、浜松市、豊橋市は全国有数の農業都市として、野菜、畜産、果樹、花卉、米等の多様な農業が行われています。

また、IT を活用した次世代型農業や高付加価値化など、農業への新しい取り組みが、東三河地域や遠州地域の民間事業者で研究されています。

一方、食の安全に対する意識が高まる中、「食と農」「食と健康」「スローフード」「地産地消」等に注目したブランドづくりが進められています。

こうした状況を踏まえ、本圏域では地域連携、農工商連携を推進しながら、生産効率とブランド力を高め、競争優位性のある農業の実現や、「食・農・健康」を組み合わせた「食農文化」の確立が必要です。

全国順位	地域名	(億円)	三遠南信地域
1位	愛知県 田原市	724	3,084億円
4位	静岡県 浜松市	540	中部5県に占める割合 30%
6位	愛知県 豊橋市	474	



■図表 2-16 平成 18 年の農業産出額の状況
出典：平成 18 年生産農業所得統計より作成

②豊富な水産資源

三遠南信地域では、天竜川、豊川等の河川や、浜名湖、三河湾、遠州灘等において、水域の特徴を活かした特色ある漁業が営まれています。

東三河地域の「あさり」「しゃこ」、遠州地域の「しらす」「うなぎ」「すっぽん」等が有名であり、特に、遠州地域では遠州灘の「とらふぐ」や「はも」など、特産品を活かした新たなブランドづくりが進められています。

こうした地域の水産資源を活用したブランド化により、広域圏域における地産地消を推進するとともに、地域の特産品を全国に向けて積極的にアピールすることが必要です。

③豊富な森林資源

三遠南信地域の人工林は、面積当たりの森林蓄積量は $219\text{m}^3/\text{ha}$ で、全国平均を上回っています。特に遠州地域、東三河地域は高く、豊かな森林資源が蓄積されています。

森林資源は、水源涵養や地球温暖化抑制など、地球規模での環境問題に対しても大きな効果を発揮します。また、世界的な木材不足による価格高騰から国産材回帰が進んでおり、国内の森林資源は改めて見直されようとしています。

また、森林を利用したセラピーや、森林作業ボランティアの活用、設楽ダム建設事業を契機とした森林資源の活用方策等も個別に検討されています。

今後は、広域的な地域連携を図りながら、地域の森林資源を活用するための技術開発、市場開拓、森林のセラピー効果を活かした事業導入等を進めていくことが重要です。

	a.人工林面積		b.人工林の森林蓄積量		b/a
	(千ha)	構成比 (%)	(万 m^3)	構成比 (%)	(m^3/ha)
東三河地域	84	0.8	2,000	0.9	239
遠州地域	92	0.9	2,239	1.0	243
南信州地域	72	0.7	1,203	0.6	166
三遠南信地域	248	2.4	5,442	2.5	219
中部圏	1,475	14.3	28,573	13.3	194
全国	10,338	100	214,145	100	207

■図表 2-17 人工林の面積当たりの森林蓄積

出典：平成 12 年農林業センサスにより作成

注記：森林法に基づく森林計画制度対象の森林面積を対象

3. 観光産業

①多様な観光資源

観光産業は、21 世紀に最も成長が期待される産業であり、対外的な「地域の顔」をつくる大切な産業です。三遠南信地域は、豊かな自然に加え、民俗芸能をはじめとする文化財、地域産業の歴史を物語る産業遺産等、魅力的な観光資源を数多く有しています。

近年、観光のスタイルが、寺社仏閣、名所旧跡等の観光地を巡る「観る」観光に加えて、自然観察やトレッキング、民俗芸能や農業収穫などの「体験する・体感する」観光へと多様化しています。特に、農業体験や自然と触れ合うエコツーリズム、グリーンツーリズムが注目を集めてきています。

しかしながら、コミュニケーションの担い手である観光ガイドの確保は難しく、県境によって観光情報が滞ったり、鉄道駅からの公共交通機関が不足したりしています。

こうした状況を踏まえ、県境を越えた観光資源のネットワーク化を進め、観光ガイドの育成や広域的な観光情報の発信拠点づくり、鉄道の利便性の向上等を推進するとともに、三遠南信地域のファンを育てていく必要があります。

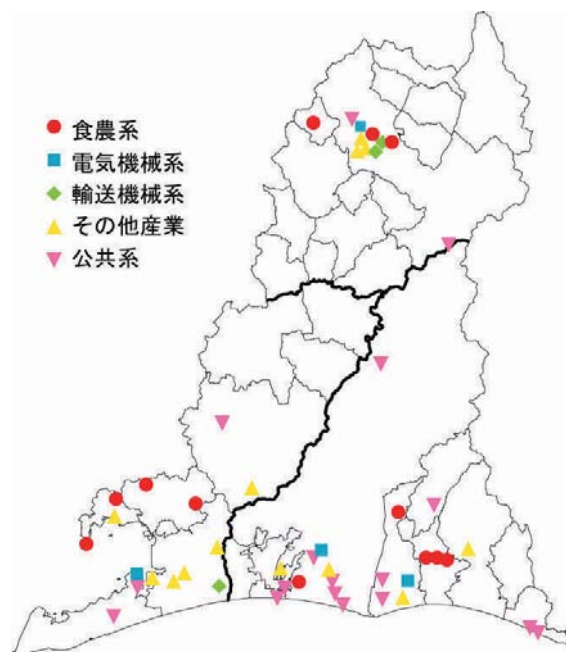
②産業観光への取り組み

三遠南信地域は、農業をはじめとし、自動車、楽器、オートバイ、食品産業、精密機械等の特色ある産業の集積がみられます。

これらの産業には、技術革新など産業発展の過程そのものが文化的価値を持つものも多く、産業文化財として再認識し、ものづくりの心に触れることを目的とした産業観光への活用を図ることが、地域の観光振興の足がかりとなります。

三遠南信地域では産業観光への取り組みが、それぞれの都市において進められていますが、県境を越えた広域的な取り組みには至っていません。

このため、県境を越えた産業観光の資源発掘や観光ルート開発等を進め、「ものづくり」を基盤として発展してきた地域として、三遠南信地域の産業観光を海外や全国にアピールしていくことが重要です。



■図表 2-18 産業観光施設の分布状況

出典：各施設資料より作成

1. 交通基盤の整備

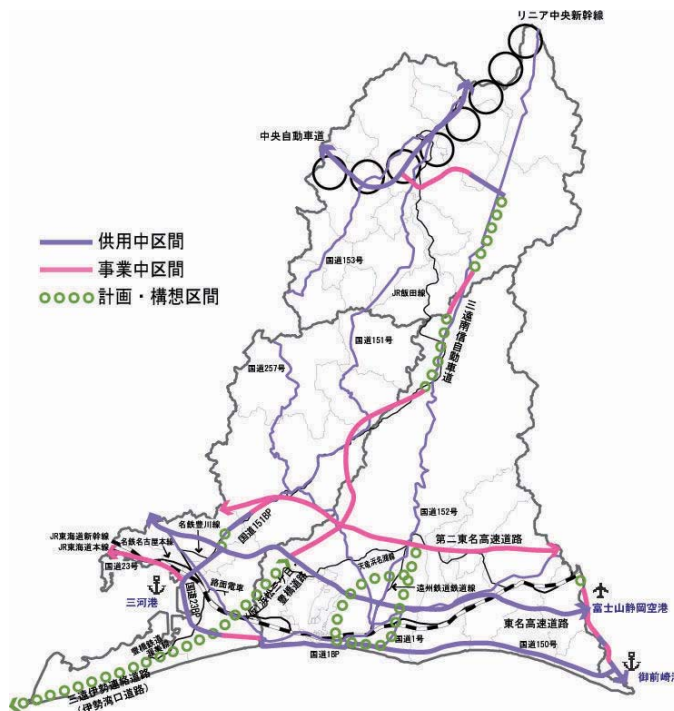
①地域の骨格となる道路の進展

三遠南信地域の骨格を形成する三遠南信自動車道の整備が進められています。三遠南信自動車道は、圏域住民の長年にわたる悲願であり、産業発展や中山間地域の振興のほか、日常生活圏の拡大や救急医療の充実、観光ルートの拡大、災害支援ルートの確保など、様々な効果が期待されています。

また、浜松・豊橋間を結ぶ国道1号・23号や、御前崎港へアクセスする国道150号・金谷御前崎連絡道路の整備は、浜松と豊橋の県境を越えた産業活動のつながりを一層強めるものと期待されます。

さらに、第二東名高速道路の開通は、交通基盤としてだけでなく、都市地域と中山間地域の中間のエリアに新たな地域開発の可能性をもたらします。

こうした広域的な幹線道路網の早期整備を積極的に進めるとともに、これらを有効に利用するための周辺環境の整備も必要になってきます。



■図表 2-19 道路網と鉄道路網（平成19年11月現在。計画および構想を含む）

出典：各種資料により作成

注：（仮）浜松三ヶ日・豊橋道路は、三河港と東名高速道路を結ぶ機能を持つ区間を想定しています。

②多様な鉄道路網

三遠南信地域には、国土の東西軸である東海道新幹線やJR東海道本線、名鉄名古屋本線が通り、広域的な大量輸送を可能にしています。また、地域内を結ぶ鉄道としては、JR飯田線、名鉄豊川線、遠州鉄道鉄道線、天竜浜名湖線、豊橋鉄道渥美線等があります。また、豊橋市には環境面からも注目される路面電車が運行されており、特徴的な鉄道が数多く存在しています。

一方、将来の国土幹線としてリニア中央新幹線が構想されており、南信州地域では駅設置に向けた活動が積極的に行われています。

今後は、鉄道を軸とする交通結節機能の向上や、高速移動に対応した鉄道の利便性向上、地域内を結ぶ鉄道の観光活用、三遠南信地域の新しいゲートウェイとなるリニア中央新幹線駅設置に向けた活動などが必要です。

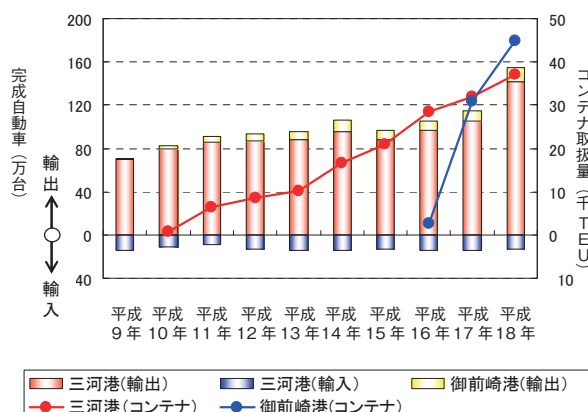
2. 国際的なゲートウェイの整備

①海のゲートウェイ（港湾）

三遠南信地域には、国際的な港湾物流の拠点として三河港、御前崎港の整備が進んでいます。三河港における平成 18 年の自動車輸出は約 140 万台、また輸入は約 13 万台と我が国全体の約半分を占めています。自動車貿易金額は全国 1 位であり、世界有数の自動車港湾となっています。また、御前崎港においても自動車輸出が増加しています。

コンテナ港湾としては、御前崎港で－14m の埠頭の整備が進められ、三河港でガントリークレーンの増設を含めた新ターミナルの建設が進んでいます。両港ともコンテナ貨物の取扱量は着実に増加しており、地域経済の国際化を支えるゲートウェイとして、その重要性が益々高まっています。

こうした中、三河港、御前崎港の整備やアクセス道路の充実を図るなど、三遠南信地域の産業を世界と結ぶ国際的なゲートウェイとして、その基盤整備が必要です。



■図表 2-20 三河港・御前崎港の物流状況
出典：各港ホームページより作成

②空のゲートウェイ（空港）

平成 21 年 3 月に開港予定の富士山静岡空港は、国際便の就航も予定され、浜松市から約 50～55 分、豊橋市からも約 85～95 分に位置し、国内線はもとより、国際的なビジネス、物流、観光のゲートウェイとなる空港として、大いに期待されています。また、平成 17 年に開港した中部国際空港は我が国の拠点空港として二本目滑走路の整備が期待されています。

このため、富士山静岡空港や中部国際空港へのアクセスと周辺整備など、三遠南信地域の経済を支える国際的な空のゲートウェイとして、三遠南信地域が一体となった活用戦略を検討していくことが重要です。

3. 大規模災害への対応

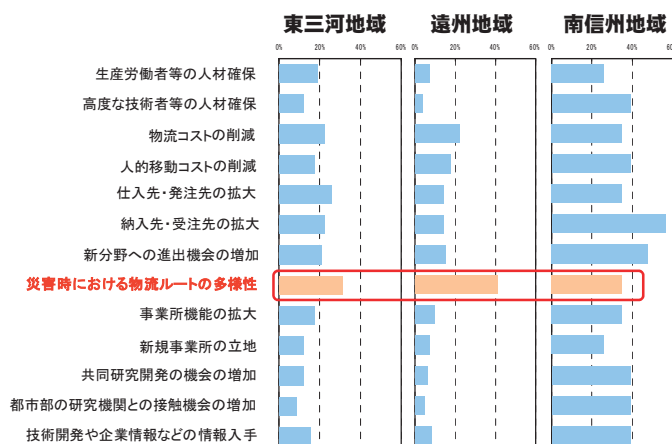
①災害への対応力

三遠南信地域は、東海地震の地震防災対策強化地域、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されています。また、台風等による風水害も発生しており、大規模災害による住民生活や産業経済活動等への影響が懸念されています。

遠州地域、東三河地域における企業アンケート調査結果では、三遠南信自動車道への期待として「災害時における物流ルートの多様性」が最も高くなっています。

また、中部圏、首都圏等との企業活動にとっても、三遠南信自動車道は東西交易を補完する重要な役割を果たすと考えられます。

このため、災害時における産業経済活動への影響を最小限に留めるためにも、一刻も早い三遠南信自動車道の開通が期待されています。



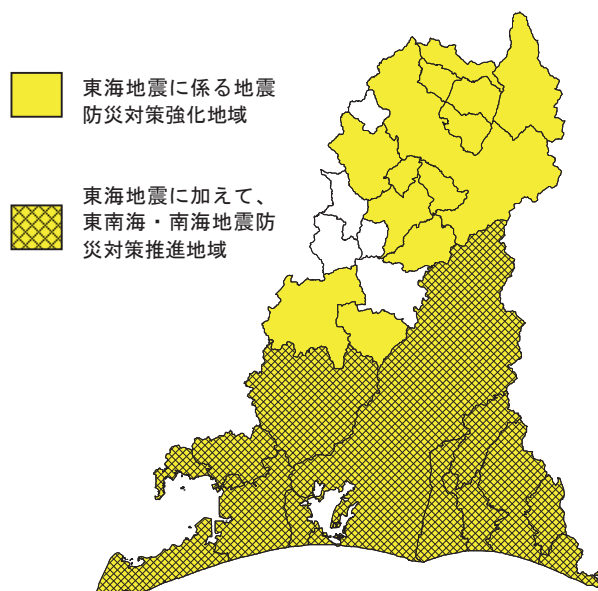
■図表 2-21 三遠南信地域に立地している企業の三遠南信自動車道への期待
出典：平成 17 年度三遠南信自動車道早期完成に向けてのアンケート調査より作成

②県境を越えた災害時相互応援協定

平成 8 年（平成 17 年 11 月改訂）、三遠南信地域では、災害時に、県境を越えて互いの職員の派遣や物資を供給し合う「三遠南信災害時相互応援協定」を結んでいます。

一方、災害復興の過程において、単独の市町村では災害廃棄物処理等の対応が困難になることが想定されます。

このため、三遠南信災害時相互応援協定をより充実させ、防災と復旧・復興対策における広域的な連携を拡充し、安全・安心な地域づくりを進めることが求められます。



■図表 2-22 防災対策の強化地域と対策地域の指定状況
出典：内閣府資料より作成

2-6 県境を越える連携活動

1. 住民を主体とした連携活動

①三遠南信地域への高い関心

住民アンケートの結果では、「三遠南信地域についてある程度理解している」が、3割を上回っています。また、県境を越える地域課題に対して、「情報があれば知りたい」が約4割、「将来の計画づくりに意見を言いたい」も1割近くあり、県境を越える地域づくりへの関心が高くなっています。

こうした高い関心をしっかりと受け止め、地域住民と一緒に住民協働の取り組みを推進することが必要です。

②地域連携活動の進展

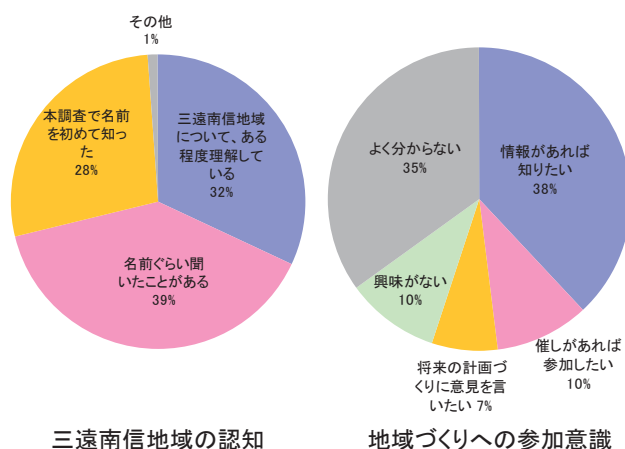
平成7年から平成15年の調査結果では、県境を越える地域活動は8年間に2.4倍に増加しています。特に、活動の主体では住民団体の増加が顕著で、活動分野では教育・文化、活動の範囲では、三遠南信地域全体を対象とした活動が多くなっています。

これらの地域連携活動を支援し、さらに活発化させる取り組みが必要です。

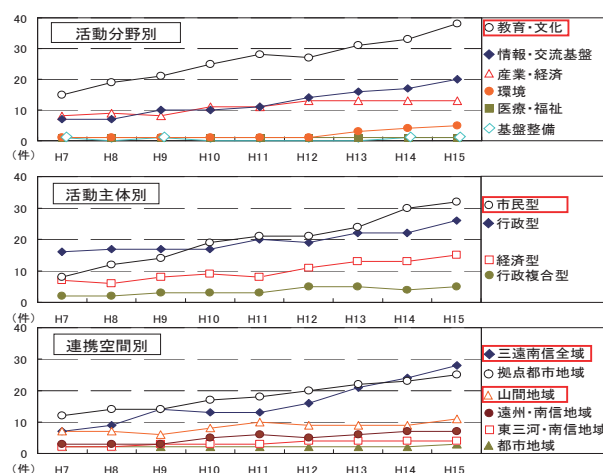
③多様な分野での連携活動の期待

住民アンケートでは、三遠南信地域において、住民全体の意向を反映させるべき地域課題としては、道路整備、観光活性化、公共交通確保、自然環境保全、緊急医療・災害応援などが高くなっています。

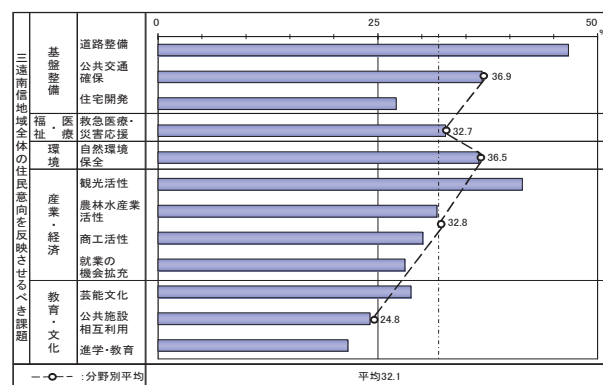
従来、各県ごとに行われていた各種の政策分野に、県境を越える連携活動が求められています。



■図表 2-23 三遠南信地域の認知と計画への参加
出典：平成12年三遠南信地域整備連絡会議調査より作成



■図表 2-24 三遠南信地域の地域連携活動の経年変化
出典：東三河地域研究センター調査



■図表 2-25 連携課題への住民期待
出典：東三河地域研究センター調査

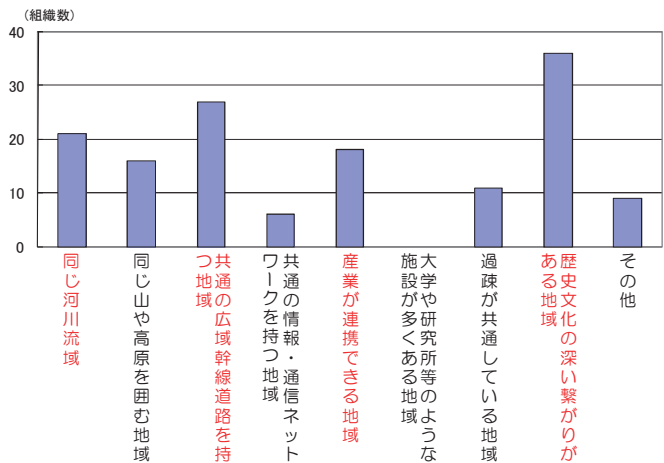
2. 境界を越える連携活動の事例

①県境地域のモデルとなる三遠南信

全国で県境を越えて地域づくりを行う組織は、約 80 あります。

県境を越えて地域が一体化する理由としては、「歴史文化のつながり」「道路による結びつき」「河川流域」「産業連携」が多く挙げられています。

三遠南信地域は、これらの項目全てについて既に連携の実績を上げており、全国県境地域のモデルとなり得る先進的な地域です。



■図表 2-26 県境地域一体化の理由

出典：東三河地域研究センター調査

②県境地域の共通課題と取り組み

全国の県境地域を調査した結果では、県境地域が持つ課題は、「道路などの基盤整備が県境でとぎれる」「生活の情報がとぎれる」「教育の課題が生じる」などが指摘されています。

また、連携活動の分野では、「観光・文化の連携」「県境を越える道路」「情報」「環境保全の活動」が多くなっています。

三遠南信地域においても、全国の県境地域と情報交換や連携をしながら、各地域の経験を共有することが必要です。

<道路関係>

- 県境にあった橋が真中で壊れていた。
- A県側の県道2車線化改良がほぼ終わりつつあるが、B県側がもう10～20年かかる。
- A県〇〇市に〇〇企業が進出してきて産業道路がつくられているが、B県側には全く計画がなく、行き止まりになり役に立たない。

<情報関係>

- 消費活動等において必要となる情報（店舗その他の施設、イベント等）が他県の場合収集しにくい。
- 新聞・テレビ等のマスメディアが県境を越えていないため、情報が伝わらない。

<小中学校教育関係>

- 集落によっては、目前に他県の学校があるのに、遠くにある自県の学校に通わなければならない。

■図表 2-27 県境の障害事例

出典：平成 14 年度県境地域連携調査より作成

2-7 地域連携ビジョンを策定する上での課題

三遠南信地域のポテンシャルから、地域連携ビジョンを策定する上での課題として、次の 5 点を挙げます。

① 中部圏における「自立した世界的都市圏」としての機能強化

中部圏では、これまで名古屋市を中心とする圏域づくりが進められてきました。しかしながら、中部圏が持つ多様性を活かし、将来に向けた均衡ある発展を遂げるためには、各地域の都市機能やポテンシャルを強化し、有機的にネットワーク化する必要があります。

三遠南信地域は、人口 230 万人を擁する中部圏第二の中核的都市圏であり、中部圏の発展に積極的な役割を果たすためには、域内の連携・補完による一体的発展を図るとともに、経済活動の更なる集積と交流圏域の拡大を進めることにより、「自立した世界的都市圏」としての機能強化が必要です。

② グローバル化や産業構造の変化に対応した「国際的な産業競争力」の強化

グローバル化や産業構造の変化に対応し、将来にわたって地域経済の発展を維持していくためには、多様な産業資源を、県境を越えて融合・連携することによって、地域産業を高度化し、「国際競争にも打ち勝つことのできる産業競争力」を強化していくことが必要です。

また、これからの都市の発展には、文化活動と産業活動が相互に刺激しあって、新たな付加価値を生み出すことが期待されており、芸術家やデザイナーなどの創造的な人材や、様々な分野の専門家が集まり活躍できる、創造性あふれる都市文化を醸成することが必要です。

③ 自然や歴史に育まれた地域文化を活かした「地域アイデンティティ」の確立

地域が国際的に評価されるには、経済力のみならず、個性的な独自の地域文化を持つことが重要です。三遠南信地域の貴重な文化的資産である「天竜川・豊川流域の我が国を代表する民俗芸能」や「現代の製造業を支えるものづくり文化」などの優れた個性を活かすことによって、国際的に評価される「地域アイデンティティ」を確立し、対外的に情報発信していくことが必要です。

④ 天竜川・豊川流域圏において自然資源、人的資源、産業資源などの補完と連携による「流域循環圏」の構築

21 世紀は「水の世紀」とも言われ、都市圏においては水資源の確保が極めて重要な課題となっています。天竜川・豊川などの流域圏に位置する三遠南信地域は、大河の恵みとして、豊かな生活を享受してきました。今後は、流域圏として上下流域一体的な意識の更なる醸成により、自然環境の保全に努めるとともに、水資源の効率的な利活用による健全な「流域循環圏」の構築が必要です。

⑤ 道州制を見据えた「県境を越える広域的な地域連携政策機能」の構築

平成 18 年 10 月の「三遠南信サミット」において、三遠南信地域の市町村は、圏域を割ることなく同一の道州を目指すことを決議しています。今後は、道州制への移行を見据え、県境を越えた地域連携施策を統括する「県境を越える広域的な地域連携政策機能」の構築が必要です。



第3章

三遠南信地域の目指すべき地域像

3-1 三遠南信地域連携ビジョンのテーマ

三遠南信地域のポテンシャルを踏まえて、三遠南信地域連携ビジョンのテーマを

三遠南信 250 万流域都市圏の創造

－世界につながる日本の中央回廊－

とします。

3-2 三遠南信地域連携ビジョンの地域像

三遠南信地域は、次の3つの役割を果たしていきます。

1. 地域が果たす3つの役割

①日本の中央回廊の形成

20世紀の工業化の進展の中で、東海道に代表される西日本国土軸は、我が国の産業経済を支える最大の産業集積地域であり続けました。

一方、日本海側の地域は、太平洋側に比べて産業集積が遅れてきましたが、今後は、大きな発展が見込まれる「東アジア時代」を担う地域として、21世紀の新しい役割が期待されています。

三遠南信地域は、東海北陸自動車道とともに、太平洋側と日本海側の両地域を東西日本の中心で結び、経済面、観光面、文化面の交流と連携を形づくる「日本の中央回廊」としての役割を持ちます。



■図表 3-1 日本の中央回廊の形成

②大伊勢湾環状地域を構成する中核的都市圏の形成

三遠南信地域は、中部圏において、名古屋圏とともに自立した都市圏を形成しています。今後、伊勢湾口道路によって期待される伊勢・鳥羽地域との連携を強化することにより、伊勢湾を中心とした大環状地域を形成することができます。

三遠南信地域は、中部圏の大規模で一体的な「大伊勢湾環状地域」を構成する中核的都市圏としての役割を持ち、伊勢湾を中心に産業や文化等の多様なネットワークを構築することが期待できます。



■図表 3-2 大伊勢湾環状地域の形成

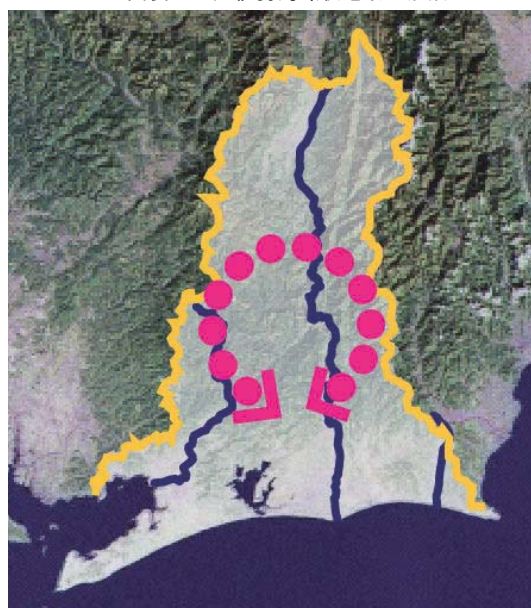
③流域循環圏の形成

三遠南信地域は、天竜川・豊川による豊かな自然資源に恵まれ、その基盤を元に、生活、産業、文化が形づくられてきました。

上流域の中山間地域と下流域の都市地域とは、水や木材の供給をはじめ、人々の暮らしや産業活動においても、相互に依存し、深く結びついています。

三遠南信地域が、一体的な振興発展を遂げるためには、河川流域を単位として、上下流域が環境や経済をはじめ、広範な分野で有機的にネットワークする循環圏を構築することが必要です。

三遠南信地域は、「流域循環圏」を形成し、自立的な地域を創造する役割を持ちます。



■図表 3-3 流域循環圏の形成

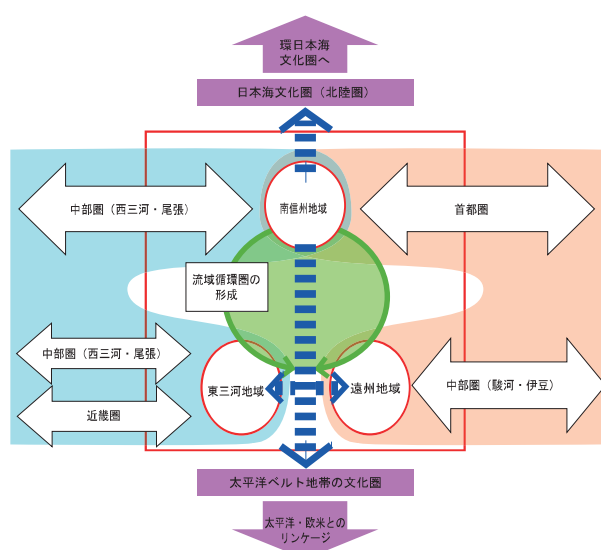
2. 三遠南信地域連携ビジョンの地域像

①日本の中央回廊の形成

②大伊勢湾環状地域を構成する 中核的都市圏の形成

③流域循環圏の形成

を目指します。



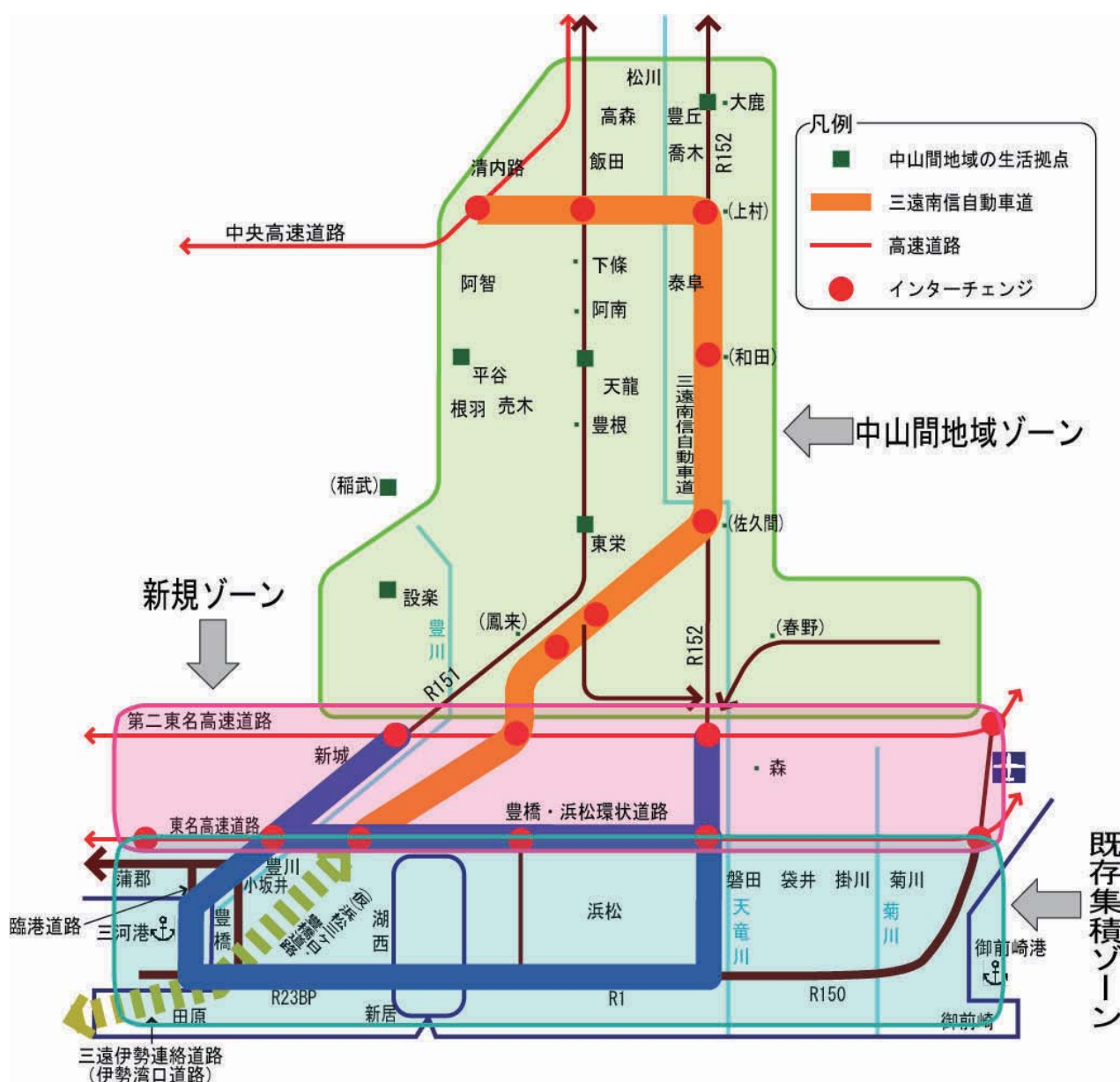
■図表 3-4 三遠南信地域の地域像

3-3 三遠南信地域の地域構造

1. 三遠南信地域のゲートウェイ

三遠南信地域は、日本の中央回廊として、首都圏、近畿圏と北陸圏を結びつける役割があります。そのため、三遠南信地域の北の玄関としてのリニア中央新幹線、三遠南信地域と近畿圏を結ぶ三遠伊勢連絡道路（伊勢湾口道路）、三遠南信地域と三大都市圏を高速で結ぶ第二東名高速道路は大変重要な社会基盤です。

また、三遠南信地域と海外を結ぶ港湾として三河港と御前崎港があり、名古屋港、清水港なども利用されています。空港としては、中部国際空港と富士山静岡空港があり、これらを三遠南信地域のゲートウェイとして位置づけます。



■図表 3-5 三遠南信地域のゾーニング

2. ゾーニング

三遠南信地域を東名高速道路、第二東名高速道路などを境界として、3つのエリアにゾーニングし、整備方針を検討します。

①既存集積ゾーン

圏域南部の JR 東海道線、東名高速道路に沿った地域は、特色をもった都市が連続しており、高度な都市機能が集積しています。広域幹線道路として、東名高速道路や国道 1 号の東西幹線が地域を貫き、圏域の東西には三河港や御前崎港の国際港湾を擁しています。

政令指定都市・浜松と中核市・豊橋とを広域交通網や情報網でより緊密に結びつけ、圏域の核として一体的な経済・文化圏を形成することにより、圏域全体の発展を牽引します。

②新規ゾーン

東名高速道路と第二東名高速道路に挟まれた地域で、住居系の郊外市街地と都市近郊農業地帯が混在する地域です。今後は、第二東名高速道路の開通に伴い、インターチェンジ周辺等への新たな産業集積が期待されます。浜名湖や地域の森林などの自然環境との調和を保ちつつ、バランスのとれた土地利用が必要です。

③中山間地域ゾーン

圏域北部の中山間地域は、過疎化・高齢化が進んでいる地域です。優れた自然環境の保全を基調とし、ライフスタイルの多様化に対応した交流人口の拡大を進めます。三遠南信自動車道の整備により、特色ある地域資源を活かすとともに、新規ゾーンや既存集積ゾーンとの活発な交流による地域振興が必要です。

流域都市圏として、これら 3つの性格を持ったゾーンの循環性を確保するために、三遠南信自動車道の整備とそれに接続する（仮）浜松三ヶ日・豊橋道路*などの構想の実現が必要です。

*（仮）浜松三ヶ日・豊橋道路は、三河港と東名高速道路を結ぶ機能を持つ区間を想定しています。

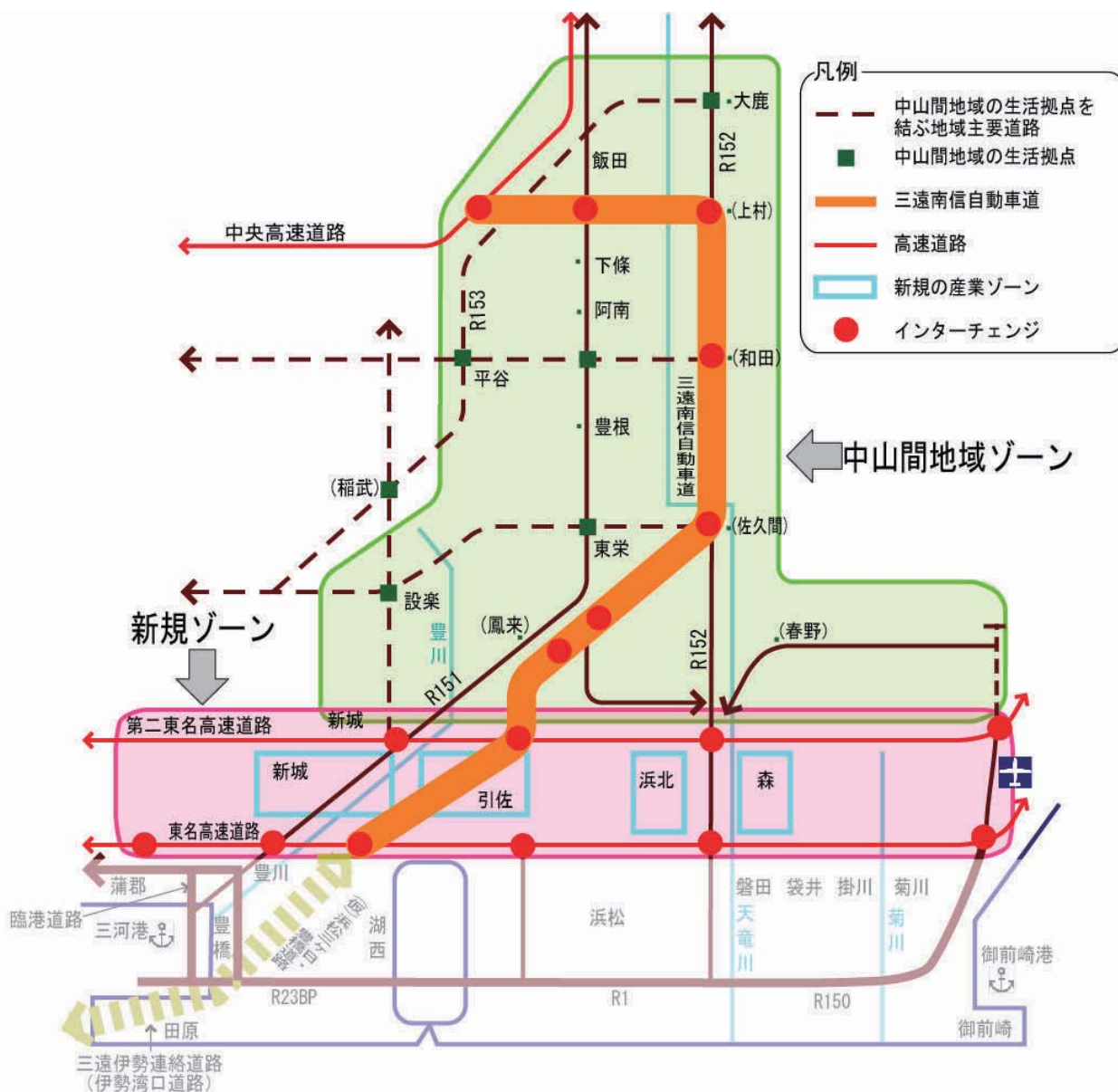
3. 高原新定住圏（新規ゾーン+中山間地域ゾーン）

圏域北部の中山間地域は、過疎化、高齢化が進んでおり、地域コミュニティの維持が大変厳しい状況にあります。

全国的に、団塊の世代の退職者を中心にスローライフを求め、中山間地域での生活を希望する傾向がある中で、三遠南信地域においては、人口が集中した下流都市地域の住民が、近接する上流域に定住の範囲を広げる意向の増加が伺えます。

そこで、中山間地域ゾーンと新規ゾーンを一体的に捉えることで、高原新定住圏として位置づけ、豊かな自然環境との調和を基調とした新たな新定住圏の形成を目指します。

そのため、三遠南信自動車道による骨格の形成とアクセス道路網の整備による限界集落の課題解消、第二東名高速道路や三遠南信自動車道のインターチェンジ周辺整備による地域一体化が必要です。

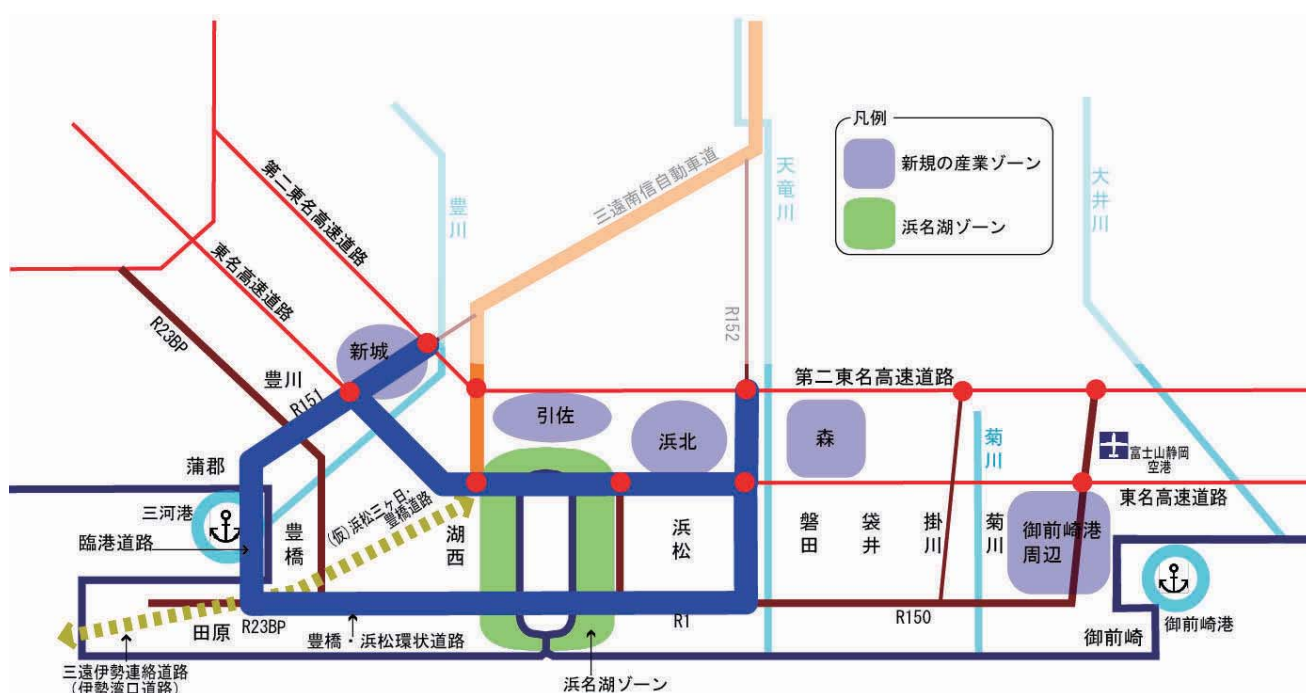


■図表 3-6 高原新定住圏

4. 三遠都市帯（既存集積ゾーン+新規ゾーン）

三遠南信地域の都市集積を高めるために、既存集積ゾーンと新規ゾーンを一体的にとらえ、東西に国際港湾を備え、第二東名高速道路、東名高速道路等の東西幹線と南北のアクセス道を梯子状に整備した都市帯の形成が必要です。

また三遠都市帯のコアとして、県境を越える豊橋・浜松広域都市の形成を目指します。そのために、豊橋・浜松環状道路周回圏の形成、浜名湖ゾーンの活用、都市圏全体での第二東名高速道路と国道23号、国道150号バイパスを結ぶ南北軸の整備、県境を越える広域都市計画の整備が必要です。



■図表 3-7 三遠都市帯



第4章

地域連携事業の方針と事業イメージ

4-1 連携事業の政策体系

三遠南信地域の目指すべき地域像を踏まえたテーマを達成していくため、5つの政策の基本方針を設けます。基本方針ごとに、推進方針、主要施策を掲げ、これらの政策体系に従って連携事業を積極的に推進します。

テーマ	政策の基本方針	推進方針	主要施策
三遠南信二五〇万流域都市圏の創造 ―世界につながる日本の中央回廊―	中部圏の中核となる地域基盤の形成	人とおもの流動促進	①三遠南信地域のゲートウェイの基盤整備 ②高原新定住圏の基盤整備 ③県境を越える三遠都市帯の基盤整備
		情報の流動促進	①中山間地域の情報基盤整備 ②県境を越える情報共有化の推進
	持続発展的な産業集積の形成	既存産業の活力増進	①人材・労働力の確保・育成 ②広域的な産業連携活動の推進 ③未利用資源の広域的な連携による有効活用の推進
		新規産業の創造と特徴ある産業クラスターの形成	①特徴ある産業クラスターの形成 ②コミュニティ・ビジネスの育成 ③県境を越える大学・研究機関連携組織の形成
	塩の道エコミュージアムの形成	塩の道エコミュージアムによる文化の発信	①歴史・文化資源の保全と風土記ネットワークづくり ②ものづくり文化の啓発と産業観光ネットワークづくり ③多様な自然資源の保全とやすらぎのネットワークづくり
		エコミュージアムのプラットフォームづくり	①エコミュージアムのプラットフォームづくり ②エコミュージアムの担い手づくり ③三遠南信地域ファンづくり
	中山間地域を活かす流域モデルの形成	自然資源の循環モデルの形成	①健全な水・物質循環を目指した環境保全活動の推進 ②森林資源の有効活用 ③新エネルギー導入の推進
		流域定住推進モデルの形成	①流域定住推進体制の整備 ②中山間地域での居住環境の確保
	広域連携による安全・安心な地域の形成	生活環境の維持と質的向上	①医療・福祉の連携 ②教育の連携 ③公共施設利用の柔軟性確保
		多文化共生の基盤づくり	①多文化共生の基盤づくり
		広域的な防災体制の充実化	①広域的な防災体制の充実化

4-2 個別政策の推進方針

基本方針1 中部圏の中核となる地域基盤の形成



人・もの・情報の流動を進めることで、「中部圏の中核となる地域基盤の形成」を目指します。

推進方針1 人とものの流動促進

三遠南信地域は、北陸圏と中部圏を結ぶ南北軸、首都圏、中部圏、近畿圏を結ぶ東西軸の連携を強化し、日本の中央回廊としての機能を強化します。また、圏域内においても、中山間地域の高原新定住圏、下流部の県境を越える三遠都市帯の創造により、中部圏の中核となる地域基盤の形成を図ります。

①三遠南信地域のゲートウェイの基盤整備

日本の中央に位置する三遠南信地域の機能を強化するために、三遠南信自動車道、第二東名・東名高速道路の整備や三遠伊勢連絡道路（伊勢湾口道路）構想の実現など、三遠南信地域と全国との人とおもの流動基盤の整備を進めます。

事業イメージ

- ・ 太平洋地域と日本海地域を結ぶ機能として三遠南信自動車道の整備とそれに接続する(仮)浜松三ヶ日・豊橋道路※構想の実現
- ・ 三遠南信地域と三大都市圏を高速で結ぶ第二東名高速道路の整備
- ・ 大伊勢湾環状地域を形成し三遠南信地域と近畿圏を結ぶ三遠伊勢連絡道路(伊勢湾口道路)構想の実現
- ・ 三遠南信地域の北の玄関としてのリニア中央新幹線飯田駅の誘致
- ・ 三遠都市帯と三大都市圏を結ぶ新幹線停車の増便
- ・ 三遠南信地域と海外を結ぶ三河港、御前崎港と富士山静岡空港、中部国際空港等の整備や高速道路アクセスの促進による国際ネットワークの形成

②高原新定住圏の基盤整備

三遠南信自動車道を活用することにより、第二東名高速道路以北の中山間地域ゾーンと広域的なポテンシャルが向上する東名高速道路、第二東名高速道路周辺の新規ゾーンを一体化し、新たなライフスタイルを創造するため、高原新定住圏として必要な基盤整備を進めます。

事業イメージ

- ・ 圏域の重要な南北軸となり、一体的な振興発展に効果の高い三遠南信自動車道((仮)青崩峠道路等)の整備
- ・ 東三河縦貫道の整備や北設井桁道路など三遠南信自動車道へのアクセス道路網の整備
- ・ 三遠南信自動車道インターチェンジ周辺の地域整備
- ・ 中山間地域の就業・生活拠点となる第二東名高速道路インターチェンジ周辺の開発

※ (仮)浜松三ヶ日・豊橋道路は三河港と東名高速道路を結ぶ機能を持つ区間を想定します。

③県境を越える三遠都市帯の基盤整備

圏域南部の既存集積ゾーンと新規ゾーンを一体的なエリアとしてとらえ、県境を越える三遠都市帯を形成します。その中心となる豊橋・浜松両都市間のアクセシビリティ向上を図ります。

事業イメージ

- ・ 東名高速道路、国道1号・23号・150号・151号・473号バイパス等の活用により、複数の環状道路網がネットワーク化した豊橋・浜松環状道路の整備
- ・ 県境地域の経済と災害補完性を強化するための(仮)浜松三ヶ日・豊橋道路の構想の実現と、浜名湖横断道などの構想の検討
- ・ 東名高速道路・第二東名高速道路の利用促進に向けたスマートインターの設置
- ・ JR東海道線の増便(浜松豊橋間)やJR飯田線の増便などの鉄道利便性の向上
- ・ 都市圏の中心部に位置し、交流や居住など多様な可能性を有する浜名湖ゾーンの活用

推進方針 2 情報の流動促進

県境を越える情報の共有化には大きな障害があり、相互の情報交換は余り進んでいません。特に、中山間地域の基盤整備を促進するとともに、圏域内の情報を共有できる広域連携を進め、県境を越える情報の流動促進を図ります。

①中山間地域の情報基盤整備

情報の不利益地域となりやすい中山間地域において、地上デジタルテレビ放送への対応やインターネット環境の改善を図るため、情報基盤の整備を進めます。

事業イメージ

- ・ 高速インターネットに対応できる情報基盤の整備
- ・ 地上デジタルテレビ放送に対応できるCATVなどの情報基盤の整備
- ・ 住民生活や企業活動、地域防災等への利活用に向けた国・民間企業等の高度情報基盤の整備とそのネットワーク化
- ・ 携帯電話不通話区域の解消
- ・ 情報基盤を活用した県境を越える中山間地域情報センターの設置

②県境を越える情報共有化の推進

県境を越えて生活情報を共有できるよう、新聞・テレビ等のマスコミによる県境を越えるメディア連携を進めます。

事業イメージ

- ・ 新聞社による「三遠南信版」の紙面確保
- ・ 県境を越える新聞報道の共同ポータルサイトの設置と情報交換
- ・ 県境を越えるCATVによる番組流通
- ・ 県境隣接地域での他県民間テレビ電波受信の緩和
- ・ 三遠南信地域を対象とした地上波テレビ局の創設

基本方針2 持続発展的な産業集積の形成



既存産業の活力増進を図るための人材・労働力の確保・育成や、未利用資源の有効活用を図るとともに、広域的な産業連携、大学連携等や海外・国内からの投資を促し、特徴ある持続的な産業集積の形成を目指します。

推進方針1 既存産業の活力増進

県境を越えた産業連携事業を通じて、人材・労働力の安定的な確保・育成や、未利用資源の有効活用等を進めるとともに、既存産業の活力増進に必要な産業機能等を海外・国内から誘導するための枠組みづくりを図ります。

①人材・労働力の確保・育成

地域から輩出される人材の地域還流化や外国人人材の定着化、国内外から専門的で質の高い人材や創造的な人材の確保を図るとともに、豊富な労働力が供給できる仕組みを検討します。

事業イメージ

- ・ 学生等の圏域内での定着に向けた県境を越えたインターンシップ制度の導入
- ・ 地域外に流出した地元大学出身者や企業退職人材の三遠南信地域への還流を促すプログラムの開発
- ・ 全国での共同就職ガイダンスの開催

②広域的な産業連携活動の推進

県境を越えた産業経済活動に係る情報の共有化を図るとともに、三遠南信地域内外の地方自治体、経済団体、大学との交流や、海外・国内からの企業を積極的に誘致し、既存産業の活力を増進します。

事業イメージ

- ・ 海外・国内からの企業投資等を促進するため、県境を越えた地方自治体、経済団体等の連携による企業誘致
- ・ 県境を越えたビジネスマッチングによる事業創出の支援
- ・ 海外・国内からの企業投資等の受け皿である産業基盤や優遇措置等に関する検討
- ・ 県境を越えた地域金融機関による産業支援活動のネットワーク化

③未利用資源の広域的な連携による有効活用の推進

地域から発生する廃棄物の適正な管理（3R：減量[容]化、再利用、再資源化）を進めるとともに、大学等と連携しながら廃棄物に含まれる未利用資源の有効活用に関する研究開発を進めます。

事業イメージ

- ・ 産学官の連携による産業廃棄物の有効活用事例、技術情報、リサイクル製品の認定情報等のデータベース化や3Rを促す共同研究
- ・ 圏域内における産業廃棄物等の不法投棄の監視、産業廃棄物処理体制づくり(ビジネス化も含む)等の検討

推進方針 2 新規産業の創造と特徴ある産業クラスターの形成

地域資源を活用したコミュニティ・ビジネスの育成、県境を越える大学連携組織の形成等により、新規産業の創造を図るとともに、産学官連携を強化し、特徴ある産業クラスターの形成を進めます。

①特徴ある産業クラスターの形成

国の地域産業施策を活用し、三遠南信バイタライゼーション協議会（浜松支部、東三河支部、飯田支部）や、はままつ産業創造センター、（財）浜松地域テクノポリス推進機構、（株）サイエンス・クリエイト、（財）飯伊地域地場産業振興センター等の産業支援機関の連携を強化しながら、産学官連携により、特徴ある知的・産業クラスターの形成を進めます。

事業イメージ

- ・ 三遠南信バイタライゼーション協議会における広域的な連携事業（全国の産業展示会における出展ブースの共同化、広域連携事業の促進等）
- ・ 産業支援機関等が実施する活動情報の共有化（ホームページのリンク等）
- ・ 特徴ある産業クラスターづくりを推進する県境を越えた事業連携（オプトロニクス（光電子工学）クラスター、航空宇宙産業クラスター、食農産業クラスター、農工連携、医工連携 等）

②コミュニティ・ビジネスの育成

中山間地域等の自立には、地域に根付いた小規模ビジネスの形成が重要であり、三遠南信地域内の先行事例を活かして、地域資源を活用したコミュニティ・ビジネスの育成を検討します。

事業イメージ

- ・ 地域住民、NPO法人等のビジネスの担い手や、大学、地域金融機関等が参画した三遠南信地域におけるコミュニティ・ビジネスに関する研究会などの設置
- ・ 事例研究、有効利用可能な地域資源の発掘、ビジネス研修等

③県境を越える大学・研究機関連携組織の形成

全国はもとより、世界の大学との連携により、知の拠点としての産業創造、地域づくり、人材育成・誘導等を図るとともに、地域企業や地域住民等との関わりを重要視しながら、県境を越える大学・研究機関連携組織の形成を進めます。

事業イメージ

- ・ 三遠南信地域内の大学・研究機関のネットワークを進めるための（仮称）三遠南信地域大学フォーラムの設置
- ・ 知の拠点としての国際的優位性を高めるため、静岡大学、豊橋技術科学大学、浜松医科大学等の大学連携による技術シーズや知的財産、人材育成等のイノベーションの創出
- ・ 研究者間の相互交流、単位互換、共同研究発表会、全国はもとより海外の大学との連携
- ・ 起業意識のある人材育成に向けた工科系・文科系の大学が連携したビジネス講座の開設
- ・ 特徴ある地域文化等を背景とした「地域学」やコミュニティ・カレッジ（公開講座）の開設
- ・ 圏域内の大学等をテレビ会議システムで結んだ双方向遠隔講義の導入

基本方針3 塩の道エコミュージアムの形成



三遠南信地域の歴史的な「塩の道」に沿った文化発信やプラットフォームを整備することで、「塩の道エコミュージアムの形成」を目指します。

推進方針1 塩の道エコミュージアムによる文化の発信

中世に起源を持つ民俗芸能等の歴史文化、天竜川・豊川の流域に広がる森林、浜名湖・三河湾・遠州灘等の貴重な自然、地域固有のものづくり文化など、多様な地域資源を活かして、地域の歴史・文化で培った「塩の道」に沿って、地域全体をエコミュージアムとして連携を図ります。

①歴史・文化資源の保全と風土記ネットワークづくり

三遠南信地域の民俗芸能をはじめとした特色ある歴史・文化資源を発見するとともに保全を図り、歴史や風土等をテーマとしたネットワーク化を進めます。

事業イメージ

- ・ 歴史・文化資源の保全と発掘のための三遠南信地域の文化財を指定する制度の創設
- ・ 民俗芸能の担い手確保や育成を支援する市民団体・NPO法人の広域的活動の支援
- ・ 地方自治体と大学等が一体となった歴史・文化資源の調査・研究・活用と公開講座等の啓発
- ・ 圏域内の美術館、博物館、図書館の交流と連携
- ・ 民俗芸能の維持・継続化や民話の伝承を総合的に支援する窓口の設置

②ものづくり文化の啓発と産業観光ネットワークづくり

本圏域のものづくりは地域の中で生まれ、成長を遂げた産業であり、三遠南信地域は現代日本を支えるものづくり文化を有しています。こうしたものづくり文化を世界に発信するために、産業観光拠点のネットワーク化を進めます。

事業イメージ

- ・ 三遠南信ものづくり文化を支える産業遺産、技能、技術の発掘と認定
- ・ 特徴あるものづくりのテーマ(農林業、楽器、バイク、自動車、精密、お菓子等)をネットワーク化した産業観光街道づくり
- ・ 小・中学生等将来の人材育成や国内外のビジネスマン等グローバルな連携の契機となる産業観光づくり
- ・ 見せる工場づくりに対する支援制度(施設・設備等への助成)の創設

③多様な自然資源の保全とやすらぎのネットワークづくり

流域圏に存在する多様な自然・生態系を保全し、温泉、食材等の豊かな自然がもたらす固有資源を活かした「心と体」のやすらぎネットワークづくりを進めます。

事業イメージ

- ・ 流域圏固有の自然・生態系(天竜川・豊川と上流の森林、浜名湖、三河湾、遠州灘等)の保全と、環境学習プログラムやエコツーリズムの開発
- ・ セラピー効果のある森林、温泉等を活かした健康づくりに着目した観光開発と、地域医療機関や医療関連先端技術企業との連携
- ・ 地域食文化や豊かな地域食材の地産地消を推進する店舗との連携

推進方針 2 エコミュージアムのプラットフォームづくり

歴史・文化、ものづくり文化、自然など、多様な地域資源のネットワーク化を推進し、エコミュージアムの担い手の育成・確保や、三遠南信地域ファンの拡大を目指したプラットフォームの形成を図ります。

①エコミュージアムのプラットフォームづくり

歴史・文化、ものづくり文化、自然など多様な地域資源のネットワークを形づくるために、エコミュージアムの土台となるプラットフォームづくりを進めます。

事業イメージ

- ・「塩の道」を日本風景街道として活用・発信するためのNPO法人等の体制づくり
- ・三遠南信デジタルアーカイブの整備
- ・道の駅を利用した三遠南信地域情報ネットワークの整備
- ・サイクルトレインのJR 飯田線・天竜浜名湖線への導入、豊橋市の路面電車、佐久間レールパーク等の鉄道資源を利用したイベントの開催など地域の鉄道の活用

②エコミュージアムの担い手づくり

観光客の地域文化に対する理解を支援するために、観光ガイドなど担い手の確保・育成を進めます。

事業イメージ

- ・観光振興に関連した組織の連携と、観光ガイドの確保(団塊世代の採用等)
- ・県境を越えた交流と情報の共有、研修による広域観光に対応できる観光ガイドの育成
- ・タクシー会社をはじめとする観光関連産業と観光ガイドとの連携

③三遠南信地域ファンづくり

三遠南信地域の情報発信力を高め、地域固有の商品・サービスの提供を図ることにより、三遠南信地域のファンを拡大します。

事業イメージ

- ・浜松市、豊橋市、飯田市等の圏域内の拠点都市の中心市街地や、東京など大都市部での三遠南信アンテナショップの開設
- ・三遠南信地域全体を対象とした広域観光マップの作成
- ・特産品を組み合わせた商品開発や、ネット販売機能の環境整備

基本方針4 中山間地を活かす流域モデルの形成



自然資源の循環や流域での定住化等の推進を図り、中山間地
域を活かした新しい地域発展のための流域モデルの形成を
目指します。

推進方針1 自然資源の循環モデルの形成

森林資源等の自然資源の維持・保全に向けて、市民団体等を交えた広域的な環境保全活動等を進めるとともに、地域の自然資源を活用した独自の循環型モデルの構築を図ります。

①健全な水・物質循環を目指した環境保全活動の推進

流域圏の健全な水・物質循環を構築していくため、水資源確保や水質改善活動等の広域的な連携活動を進めます。

事業イメージ

- ・産・学・官・民が参加した県境を越えた「健全な水・物質循環」の構築に向けた共同プロジェクト(遠州灘海岸の侵食防止、天竜川ダム再編事業、設楽ダム建設事業、浜名湖・三河湾の水質浄化活動、住民参加型の水質浄化に関する行動計画づくり等)の推進
- ・三遠南信地域の環境保全・保護団体等の情報交換

②森林資源の有効活用

森林資源に着目し、新しい技術導入等を図りながら、新たな事業や適正な森林管理を行える環境整備を進めます。

事業イメージ

- ・上下流域の住民の協働による森林の保全
- ・生産効率の高い伐採・搬出技術についての情報交換、地元企業や大学との共同研究
- ・公共事業等を契機とした森林資源の有効活用事業(木質バイオマス利用等)
- ・環境共生型住宅の普及啓発
- ・公共事業への地域材の積極的な活用、地域材を利用した住宅建築に対する支援制度の充実化による地域材の市場開拓
- ・県境を越えた林業関係者の情報交換による広域的な森林管理、森林資源活用
- ・地域文化と連携したチェーンソーアート活動の広域化
- ・間伐など森林整備の財源確保を目的とした森林税の有効活用
- ・国、県、市町村の連携による鳥獣害対策の実施

③新エネルギー導入の推進

地域の生活環境、自然環境、景観等に配慮しながら、自然エネルギーの導入を推進するとともに、バイオマスを利用したエネルギー開発に関する研究開発を進めます。

事業イメージ

- ・地域の環境・景観等に配慮した太陽光発電、風力発電等の自然エネルギーの導入
- ・家畜排せつ物、林産廃棄物、下水汚泥等を活用したエネルギー等の研究開発

推進方針 2 流域定住推進モデルの形成

流域圏の豊かさを活用した流域定住を促進するため、下流域都市住民の中山間地域定住要望と上流域の受け入れ供給を円滑に結びつける体制を検討し、集落の生活及び居住機能を確保するための公共サービスの強化や、高原新定住ゾーンにおける流域定住推進モデルの構築を図ります。

①流域定住推進体制の整備

下流域都市住民の意向と上流域の状況を把握し、流域定住を推進する地域モデルを構築するため、上流域と下流域の自治体が連携して流域定住の推進体制の整備を進めます。

事業イメージ

- ・ 流域定住や二地域居住を進めるための総合的な相談窓口の設置、居住体験が行える施設の整備、生活に関連した情報を円滑に提供できる仕組みづくり
- ・ 受け入れ地区住民の意識調査等による空き家・貸し家・遊休施設等の施設利用情報のデータベース化
- ・ 長期滞在者向けの旅館利用や滞在施設(廃校、旧役場、空き家等)の整備
- ・ 空き家、貸し家、遊休施設等の仲介に対する不動産会社等の民間企業への協力要請
- ・ 耕作放棄地や遊休施設に関心を持つ企業への施設・用地紹介や情報提供
- ・ 遊休施設を社員保養施設として利用したい企業への支援

②中山間地域での居住環境の確保

中山間地域での生活及び居住機能を確保するため、集落間を結ぶ生活道路、情報基盤などの公共施設整備を検討するとともに、医療、教育などの基礎的な公共サービスを充実します。

事業イメージ

- ・ 三遠南信自動車道のインターチェンジと周辺集落を連結するアクセス道路、生活道路の整備
- ・ 情報化時代に適合した情報基盤の整備
- ・ 基幹集落を中心とした生活機能(医療、教育、公共交通機関等)の整備と強化
- ・ 地震など災害への対応を考慮した集落の連携
- ・ まちづくりの連携に向けた上下流域での友好地区の募集と活動支援

基本方針5 広域連携による安全・安心な地域の形成



医療・福祉や教育の充実、外国人との多文化共生、防災対策など、住民の生活環境の維持と向上を広域連携によって推進し、安全・安心な地域の形成を目指します。

推進方針1 生活環境の維持と質的向上

暮らしの安心・安全に向けた医療・福祉サービス、教育環境の充実や、公共施設の利便性向上を進め、生活環境の質的向上を図ります。

①医療・福祉の連携

医師不足への対応や地域医療、地域福祉の充実を目指して、県境を越えて広域的に連携することにより、安心できる医療サービスやきめ細かな福祉サービスを提供します。

事業イメージ

- ・医科大学と三遠南信地域自治体との連携
- ・休日診療、夜間診療の連携を図るための隣接県の医療施設の利用とその情報発信の県境を越えた連携
- ・ドクターヘリの県境を越えた活動を支える中山間地域での中継基地(燃料補給等)の設置
- ・情報通信技術を活用した遠隔地医療診断
- ・保健医療計画、福祉計画(高齢者・障害者・母子保健等)の県境連携
- ・県境地域の高齢者福祉施設の広域利用

②教育の連携

教育環境を充実するため、県境を越えた教育連携を進めます。

事業イメージ

- ・県境隣接地域に位置する県立高等学校の越県入学枠の拡大と、県境を越える高校受験情報の共有化
- ・総合学習等への市民参加による多面的な人材活用
- ・三遠南信地域を取り上げた総合学習
- ・三遠南信地域における各種スポーツ大会の開催
- ・三遠南信地域の子どもの交流を促進するための交流プログラム開発(セカンドスクール事業等)

③公共施設利用の柔軟性確保

公共施設の利便性向上のため、公共施設に係る情報連携や、公共施設の広域的な利用を進めます。

事業イメージ

- ・公共施設の県境を越えた利用を促進するポータルサイトの構築
- ・公共施設の三遠南信地域内住民に対する利用制限の撤廃と、自地域住民並の利用料金の設定

推進方針 2 多文化共生の基盤づくり

日系ブラジル人や中国人をはじめとする外国人住民や企業の国際化に伴う帰国子女の増大に対応して、異なった文化的背景を持つ人々が共生できる地域社会をつくります。また、外国人が集住している地域の特徴を活かし、圏内の都市や外国人集住都市会議に加盟している都市などと連携し、国や県などに働きかけ、法律や制度の整備を図ります。

①多文化共生の基盤づくり

外国人の社会参加の促進、就労・教育機会の充実、住民と外国人が交流できる地域コミュニティの形成、圏域内の都市や国内外の都市とのネットワークを活かした地域づくりを企業・住民・行政が力をあわせて進めます。

事業イメージ

- ・外国人の児童・生徒に対する日本語学習支援や母国語による学習支援等の充実や、外国人学校への支援
- ・帰国子女や外資系企業の子弟教育のためのインターナショナルスクールの設置
- ・日本とブラジル等を結ぶ国際ビジネスに対する起業サポート
- ・外国人の生活基盤を整えるための多文化共生ソーシャルワーカーなどの育成や支援
- ・災害時に備えて、外国人住民に向けた案内の翻訳や通訳業務等に対する都市間連携による体制の整備
- ・外国人の子どもの高校や大学などへ進学に向けた支援体制の強化

推進方針 3 広域的な防災体制の充実化

「三遠南信災害時相互応援協定」に基づいて、災害から住民の生命、身体、財産を守るため、県境を越えた防災体制の整備を図り、平常時から、連絡会議の開催や訓練を実施するなど、緊密な協力体制の確立を目指します。災害発生時には隣接県や被災地域外からの応援を円滑に受け入れる体制の整備を図ります。

①広域的な防災体制の充実化

広域防災相互協力体制を強化し、各都市相互の情報の交換、職員等の交流、防災に関する相互協力を進めます。

事業イメージ

- ・医療機関、民間企業、防災NPO法人等の参画と広域連携
- ・「三遠南信災害時相互応援協定」における災害廃棄物の相互処理などの必要な項目の追加
- ・広域防災拠点の連携を強化するための港湾機能や緊急輸送路等の整備
- ・地域の消防力・防災力の相互協力のための消防活動の広域連携



第5章

重点プロジェクト

5-1 重点プロジェクトの構成

連携事業の中から三遠南信サミットとして重点的に推進するプロジェクトとして、以下の事業を挙げます。（ ）内は、第4章の該当箇所を示しています。

政策の基本方針 1：中部圏の中核となる地域基盤の形成

- ① 三遠南信自動車道の整備促進と三遠伊勢連絡道路(伊勢湾口道路)構想の実現 (政策体系1-1-①)
- ② 三河港、御前崎港、中部国際空港、富士山静岡空港の整備と高速道路へのアクセス路の整備促進による国際ゲートウェイ機能の充実 (政策体系1-1-①)
- ③ リニア中央新幹線の早期実現と飯田駅設置 (政策体系1-1-①)
- ④ 豊橋・浜松環状道路を形成するネットワークの整備促進 (政策体系1-1-③)
- ⑤ 県境を越えるマスコミの連携 (政策体系1-2-②)

政策の基本方針 2：持続発展的な産業集積の形成

- ① 三遠南信ビジネスマッチングの促進 (政策体系2-1-②)
- ② 国内外に向けた人材・企業誘致の活動促進 (政策体系2-1-②)
- ③ 特徴ある産業クラスター拠点づくりと県境を越えた事業連携 (政策体系2-2-①)
- ④ 三遠南信地域大学フォーラムの設置 (政策体系2-2-③)

政策の基本方針 3：塩の道エコミュージアムの形成

- ① 「塩の道」風景街道の体制づくり (政策体系3-2-①)
- ② 地域資源を活かす鉄道の有効活用 (政策体系3-2-①)
- ③ 海外への観光情報発信と外国人観光客誘致の促進 (政策体系3-2-③)
- ④ 三遠南信アンテナショップの開設 (政策体系3-2-③)

政策の基本方針 4：中山間地域を活かす流域モデルの形成

- ① 「健全な水・物質循環」の構築に向けた共同プロジェクトの推進 (政策体系4-1-①)
- ② 上流域と下流域の自治体が連携した流域定住の推進体制の整備 (政策体系4-2-①)

政策の基本方針 5：広域連携による安全・安心な地域の形成

- ① 医療分野の県境を越える連携の促進 (政策体系5-1-①)
- ② 三遠南信地域内住民に対する公共施設の広域利用推進 (政策体系5-1-③)
- ③ 県境を越える防災体制の強化 (政策体系5-3-①)

政策の基本方針1 中部圏の中核となる地域基盤の形成

1 三遠南信自動車道の整備促進と三遠伊勢連絡道路（伊勢湾口道路）構想の実現

三遠南信 250 万流域都市圏の骨格を形成し、三遠南信地域を太平洋地域と日本海地域を結ぶ日本の中央回廊とするために、三遠南信自動車道の整備促進を働きかけるとともに三遠伊勢連絡道路（伊勢湾口道路）構想の実現に向けた取り組みを推進します。

【活動イメージ】

- ・三遠南信自動車道の高規格幹線道路としての全線にわたる早期整備を目指します。特に、（仮）青崩峠道路の早期開通を強く働きかけます。
- ・三遠伊勢連絡道路（伊勢湾口道路）構想の実現に向けて関係機関へ積極的に働きかけます。

【推進主体とその活動】

自治体、商工会議所・商工会等が中心となって、国への要望などの活動を進めます。

2 三河港、御前崎港、中部国際空港、富士山静岡空港の整備と高速道路へのアクセス路の整備促進による国際ゲートウェイ機能の充実

国際的に競争力のある産業を有する三遠南信地域の国際ネットワークを保持・強化するために、三遠南信地域の国際ゲートウェイとして、三河港、御前崎港、中部国際空港、富士山静岡空港の整備、高速道路へのアクセス路の整備を促進することによって、世界に直結した（シームレス）ネットワークを形成します。

【活動イメージ】

- ・港湾、空港と高速道路が一体として機能できるように優先的整備を進めるため、国・県等の関係機関に働きかけるとともに、その積極的な利用に努めます。
- ・三河港は、世界的な自動車港湾としての機能を充実するとともに、コンテナ物流の機能を強化します。また、（仮）浜松三ヶ日・豊橋道路構想の実現など、高速道路へのアクセス強化、後背地と港湾を結ぶ国道 23 号バイパスの整備促進を働きかけます。
- ・御前崎港は、地域の物流拠点としての機能強化を図るとともに、国道 150 号や金谷御前崎連絡道路の整備を進めます。
- ・中部国際空港及び富士山静岡空港においては、就航本数や国内外定期便の増大など利便性の向上に向けた要望を行うとともに、交通アクセスの向上により地域の回遊性を高め、観光客、航空貨物等の受け入れ態勢を整えます。

【推進主体とその活動】

自治体、商工会議所・商工会等が中心となって国への要望などの活動を進めます。

3 リニア中央新幹線の早期実現と飯田駅設置

リニア中央新幹線が整備されることで、首都圏や近畿圏から三遠南信地域への北のゲートウェイとして飛躍的にアクセスが向上し、経済効果も期待されます。内陸部における発展を促進する新たな国土の大動脈として、安全・安心かつ大量高速輸送機関であるリニア中央新幹線の早期実現と飯田駅設置を促進します。

【活動イメージ】

- ・リニア中央新幹線の早期実現に向けて、全国新幹線鉄道整備法の基本計画から整備計画への格上げを働きかけます。
- ・新しく策定される国土形成計画に、科学技術創造立国に相応しいリニア中央新幹線の整備を明確に位置づけるように働きかけます。
- ・関係機関と連携、協力し、建設促進の運動や要請活動、調査等を行うとともに、飯田駅実現に向けた運動に取り組みます。

【推進主体とその活動】

自治体、商工会議所・商工会等が中心となって、国等への要望などの活動を進めます。

4 豊橋・浜松環状道路を形成するネットワークの整備促進

浜名湖を境として豊橋、浜松に分割されている都市集積を一体化することで、東海道における150万人広域都市を形成し、三遠南信地域の発展を牽引する都市集積を高めます。このため、三遠都市帯において豊橋・浜松環状道路を形成するネットワークの整備を促進します。

【活動イメージ】

- ・東名高速道路、国道1号・23号バイパス、国道151号、国道152号バイパス、(仮)浜松三ヶ日・豊橋道路を結び合わせることで、豊橋・浜松環状道路を形成するネットワークの整備を促進します。
- ・東名高速道路部分については、第二東名高速道路に長距離交通が転換すると考えられ、スマートインターなどを活用して、利用を促進します。
- ・豊橋・浜松環状道路を取り巻く地域に対して、県境を越えた広域的な視点（広域調整）により都市構造やインフラなどの資本ストックを有機的に結び付けた基盤整備を進めます。特に広域都市の中心部に位置し、交流や居住など多様な可能性を有する浜名湖ゾーンの活用を図ります。

【推進主体とその活動】

自治体、商工会議所・商工会等が中心となって、整備方針を検討します。

5 県境を越えるマスコミの連携

三遠南信地域のマスコミ機能は、必ずしも一体化されておらず、生活情報等が分断される傾向にあります。住民や企業が県境を越える情報の共有化を進め、交流や企業連携を促進するために、県境を越えるマスコミの連携を促進します。

【活動イメージ】

- ・三遠南信地域内の情報連携の基盤として、各マスコミの連携に向けた意見交換を促進します。
- ・県境近接地域での、医療情報等の生活情報の連携を働きかけます。
- ・「三遠南信版」の紙面確保や共同ポータルサイトの可能性検討、情報交換を働きかけます。
- ・県境を越えるCATVの番組流通や、県境隣接地域での他県の民間テレビ電波の受信の緩和を働きかけます。

【推進主体とその活動】

マスコミ各社と、自治体、商工会議所・商工会、市民団体などと意見交換を行い、連携活動を検討します。

1 三遠南信ビジネスマッチングの促進

三遠南信地域の地域経済の活力を高めていくために、県境を越えて企業間の交流を深め、新規ビジネスの創出を支援します。

【活動イメージ】

- ・三遠南信地域を対象としたビジネスマッチング機会を積極的に創出します。
- ・信用金庫等の地域金融機関が連携して、企業・人材情報を蓄積し、企業交流を促進します。また、地域金融機関のサミットを開催します。
- ・各地域で開催される産業展示会等では、三遠南信地域内の企業が積極的に参加できるようなPR活動を進めます。
- ・県境を越えてビジネスプラン等を持つ企業の発表機会をより多く設けていきます。

【推進主体とその活動】

浜松市、豊橋市、飯田市の各商工会議所が中心となり、三遠南信地域経済開発協議会や地域金融機関等の協力・支援を得ながら推進します。

2 国内外に向けた人材・企業誘致の活動促進

「三遠南信」が知名度を高め、国内外へ向けた地域プロモーションを進めるため、三遠南信地域が一体化した人材・企業投資等の誘導戦略をつくり、人材・企業誘致活動を推進します。

【活動イメージ】

- ・国内外の将来性豊かな企業を対象とした誘致活動を推進します。
- ・海外、国内他地域への情報発信力を強化するため、特徴ある産業集積、クラスター事業や、工業団地、企業立地優遇措置等について、複数言語によるポータルサイトの整備や、相談窓口の充実化を図ります。
- ・企業誘致パンフレットの共同制作の検討等、企業誘致活動における連携活動を充実します。

【推進主体とその活動】

自治体、商工会議所、商工会等が中心となって、活動を促進します。

3 特徴ある産業クラスター拠点づくりと県境を越えた事業連携

世界的な「ものづくり」地域として継続的な発展を続けるには、新規産業の育成が不可欠となっています。そのために特徴ある産業クラスターを形成するための拠点づくりと、県境を越えた事業連携を促進します。

【活動イメージ】

- ・特徴ある産業クラスターとして、オプトロニクス（光電子工学）クラスター、航空宇宙産業クラスター、食農産業クラスター、農工連携、医工連携等の広域拠点づくりを進めます。
- ・自動車、鉄道などの輸送用機器や工作機械、ロボット等の産業を重点に、三遠南信全域を対象とした産業クラスターづくりを推進します。
- ・各産業クラスターの強化を図るため、三遠南信地域や他地域からの企業参加等を積極的に誘導するためのポータルサイトの整備や、窓口・仲介機能を充実します。

【推進主体とその活動】

三遠南信バイタライゼーション協議会が中心となり、はままつ産業創造センター、(株)サイエンス・クリエイト、(財)飯伊地域地場産業振興センター等と連携しながら推進します。

4 三遠南信地域大学フォーラムの設置

三遠南信地域における人材の育成・定着、技術開発力の強化、文化や芸術の振興などに向けて、地域の総合的な学術研究機能や高等教育機能を高めるために、三遠南信地域の大学・研究機関等の連携を促進する三遠南信地域大学フォーラムを設置します。

【活動イメージ】

- ・大学間の意思疎通を高め、地域との連携を促進するために、三遠南信地域内の大学学長による意見交換の場を設けます。
- ・単位互換等を促進することで、三遠南信地域の大学が連携した総合大学としての魅力を創出します。また、地域集積が高い農林業分野等について、新規大学の誘致を検討します。
- ・大学の総合力を高めるために、各専門の枠を越えた研究者間の交流機会の創設、共同研究を促進します。
- ・人材の地域定着を促進するために、県境を越えるインターンシップ事業を促進します。
- ・地域との交流として、地域学の創設やコミュニティカレッジとしての役割を検討します。
- ・三遠南信地域の戦略的な分野に関して、国際学会誘致など全国の大学や国外の大学との連携を支援します。

【推進主体とその活動】

大学、自治体等が中心となって、運営組織を立ち上げ、活動を推進します。

1 「塩の道」風景街道の体制づくり

三遠南信地域は、歴史的に形成された南北の「塩の道」に沿って形作られており、自然・歴史・文化・産物など地域特有の資源を守り、掘り起こし、磨きあげ、往来の物語を構築します。このために、「塩の道」風景街道の体制づくりを進めます。

【活動イメージ】

- ・国土交通省の「日本風景街道」に登録し、具体的な連携活動に取り組みます。
- ・三遠南信「塩の道」風景街道の風景価値を高めるための地域連携・発信活動に取り組みます。
- ・三遠南信「塩の道」風景街道の地域資源を掘り起こし、磨き、活かす活動に取り組みます。
- ・三遠南信「塩の道」風景街道の自然、歴史、伝統文化、暮らしを学び、伝える活動に取り組みます。

【推進主体とその活動】

三遠南信地域内の市民団体等を中心に、事業内容を検討します。

2 地域資源を活かす鉄道の有効活用

塩の道エコミュージアムの形成を支援する鉄道の観光活用を進めます。

【活動イメージ】

- ・鉄道事業者と連携を取りながら、地域内を結ぶ鉄道と観光資源のネットワーク化を検討します。
- ・ＪＲ東海道線の増便などの鉄道の利便性を向上させます。
- ・ＪＲ飯田線、天竜浜名湖線の観光利用を地域運動として促進することを検討します。
- ・豊橋市の路面電車、佐久間レールパーク等鉄道資源を利用したイベントの開催を検討します。

【推進主体とその活動】

鉄道事業者、自治体、商工会議所・商工会等が中心となって、事業内容を検討します。

3 海外への観光情報発信と外国人観光客誘致の促進

三遠南信地域の観光資源は、山から海までの自然資源、歴史、産業観光など多様であり、交通の利便性も高いことから、一地域での周遊性を期待する訪日外国人観光に適しています。このため、海外への観光情報発信と外国人観光客誘致を促進します。

【活動イメージ】

- ・海外で開催される国際旅行博覧会等に参加し、三遠南信地域の観光PRをするため、外国語広域観光マップ等を活用して観光情報発信を進めます。
- ・複数の外国語で閲覧できる三遠南信観光ポータルサイト（インターネットホームページ）を作成します。
- ・地域の観光関連事業者と連携して、外国人観光客を対象とした三遠南信地域を巡る観光モデルツアーの商品化を検討します。
- ・海外へ三遠南信観光プロモーション団を派遣します。
- ・富士山静岡空港、中部国際空港への国際定期便の増便、路線増設、国際チャーター便の運行を航空会社、空港会社、国・県、旅行会社等へ働きかけます。

【推進主体とその活動】

自治体、観光関連事業者、三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会等が連携して、事業を促進します。

4 三遠南信アンテナショップの開設

三遠南信地域の地域固有の商品・サービスを広く圏域内外にアピールし、新たな販路を広げるため、特産品販売の場づくりとして、三遠南信アンテナショップを開設します。

【活動イメージ】

- ・浜松市、豊橋市、飯田市等の拠点都市の中心市街地等へ、三遠南信地域の特産品の展示・販売、観光情報、地域情報の発信等を行うアンテナショップ（仮称：三遠南信ふれあいショップ）の開設を検討します。
- ・大都市部（東京、名古屋、大阪等）での三遠南信アンテナショップの開設を検討します。

【推進主体とその活動】

自治体、商工会議所・商工会、観光協会、農林水産団体等が中心となって、事業内容を検討します。

1 「健全な水・物質循環」の構築に向けた共同プロジェクトの推進

地域環境の持続性を確保するために、流域圏の「健全な水・物質循環」の視点から、水資源確保、水質改善、物質循環のメカニズム解明を進めながら、複数のプロジェクトを共同化することで関係機関の相互調整を促進します。

【活動イメージ】

- ・「健全な水循環」に係る産・学・官・民による情報共有・情報交換ができる場づくりを進めます。
- ・産・学・官・民が参加し、県境を越えた「健全な水・物質循環」の構築に向けた共同プロジェクトを推進します（遠州灘海岸の侵食防止、天竜川ダム再編事業、設楽ダム建設事業、浜名湖・三河湾の水質浄化活動、住民参加型の水質浄化に関する行動計画づくり等）。

【推進主体とその活動】

国、県の協力の下に、市町村が中心となって活動促進を働きかけます。

2 上流域と下流域の自治体が連携した流域定住の推進体制の整備

下流域都市住民の中山間地域への居住に対する関心を喚起することで、上流域への人口流入を図るとともに、流域圏の多様性を活用することによって三遠南信地域の定住の魅力を増大させます。このために、上流域と下流域の自治体が連携して流域定住の検討体制を構築します。

【活動イメージ】

- ・受け入れ地区住民の意識調査等を行い、空き家、貸し家、遊休施設等の施設利用情報のデータベース化に取り組みます。
- ・流域定住や二地域居住を進めるための総合的な相談窓口の設置、居住体験が行える施設の整備、生活に関連した情報を円滑に提供できる仕組みづくりを進めます。
- ・長期滞在者向けの旅館利用や滞在施設（廃校、旧役場、空き家等）の整備を検討します。
- ・空き家、貸し家、遊休施設等の仲介を不動産会社等の民間企業に働きかけます。
- ・耕作放棄地や遊休施設に関心を持つ企業への施設・用地紹介や情報提供に取り組みます。
- ・遊休施設を社員保養施設として利用したい企業への支援を検討します。

【推進主体とその活動】

上下流域自治体による検討体制を設けます。

1 医療分野の県境を越える連携の促進

住民生活の安心を確保するために、最も基本となる地域医療体制を、県境を越えて整備します。

【活動イメージ】

- ・ 公立病院を中心とした医療施設の広域利用を進めます。
- ・ 医科大学と三遠南信地域自治体との連携を促進します。
- ・ 県境近接地域で、休日診療、夜間診療の連携が取れていないため、隣接県の医療施設の情報発信、医療施設利用の連携を進めます。
- ・ ドクターヘリの県境を越えた活動を支えるため、中山間地域での中継基地（燃料補給等）設置を検討します。
- ・ 情報通信技術を活用した遠隔地医療診断を検討します。

【推進主体とその活動】

自治体が中心となって、具体的な検討、関係機関への働きかけを進めます。

2 三遠南信地域内住民に対する公共施設の広域利用推進

三遠南信地域住民に対する行政サービスの向上と施設の有効活用を図るために、公共施設情報の連携や公共施設の広域的な利用を促進します。

【活動イメージ】

- ・ 公共施設の県境を越えた利用を促進するポータルサイトの構築を検討します。
- ・ 公共施設の三遠南信地域内住民に対する利用制限を撤廃するとともに、自地域住民並の利用料金の設定を検討します。

【推進主体とその活動】

自治体が中心となって、事業を推進します。

3 県境を越える防災体制の強化

東海地震等の大規模災害が想定されることから、地域住民の生命、身体、財産等を災害から守るために、防災に関する関係機関の相互協力を、県境を越えて取り組みます。

【活動イメージ】

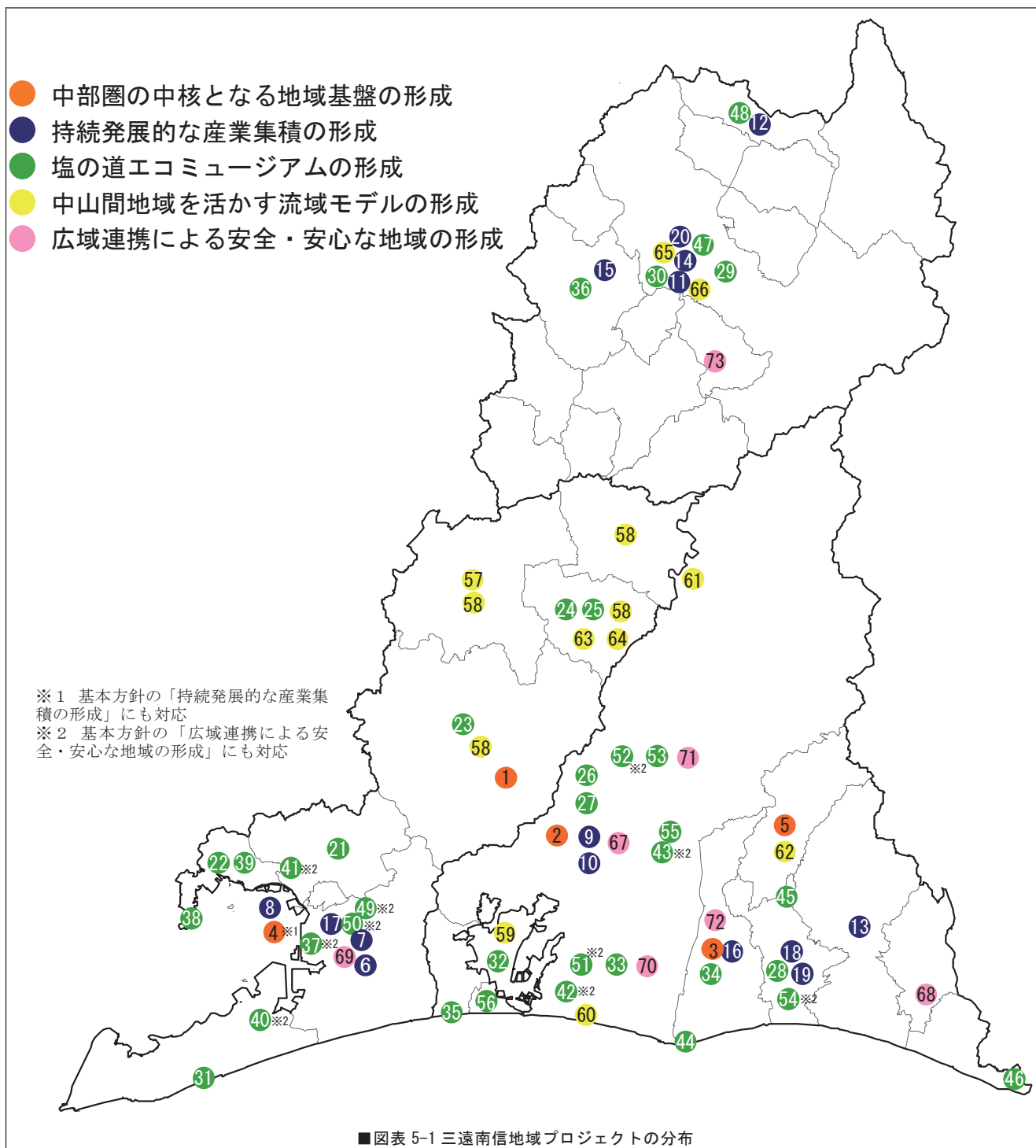
- ・ 地域の防災力の向上のため、自主防災組織の充実・連携に取り組みます。
- ・ 「三遠南信災害時相互応援協定」において、災害廃棄物の相互処理など、必要な項目の追加を検討します。
- ・ 広域防災拠点の相互連携を強化するため、港湾機能、道路機能（防災道路、緊急輸送路等）の充実を図ります。

【推進主体とその活動】

自治体を中心となって、自主防災組織や自治会等と協力して事業内容を検討します。

5-3 連携事業を支援するプロジェクト

三遠南信地域では各市町村において図表 5-1、5-2 に示した地域プロジェクトが計画、構想されています。本ビジョンの策定とあわせて、これらの地域プロジェクトの推進を強めていくことが必要となっています。



基本方針	開発計画分野	地域	市町村	プロジェクト名	地図番号	
中部圏の中核となる地域基盤の形成	総合的な工業（産業）開発計画	東三河	新城市	第二東名高速道路新城インターチェンジ（仮称）インター周辺整備基本構想	1	
		遠州	浜松市	第二東名引佐IC周辺開発事業	2	
	工業団地開発計画	遠州	磐田市	遠州豊田PA周辺土地区画整理	3	
	港湾開発計画	東三河	三河港地域	国際自動車コンプレックス計画＊1	4	
	都市基盤整備計画	遠州	森町	第二東名IC・PA建設関連事業	5	
持続発展的な産業集積の形成	総合的な工業（産業）開発計画	東三河	豊橋市	サイエンス・クリエイト21計画	6	
			豊橋市	食農産業クラスターの推進	7	
			三河港地域	国際自動車産業交流都市計画（地域再生計画）	8	
		遠州	浜松市	はままつ産業創造センターの設置運営	9	
			浜松市	地域産業活性化プロジェクト「三遠南信バイタライゼーション浜松支部」	10	
			南信州	飯田市	天龍峡エコバレープロジェクト	11
		松川町		農業交流支援センター建設事業	12	
		工業団地開発計画	遠州	掛川市	新エコポリス整備事業	13
		流通施設計画	南信州	飯田市	桐林環境産業公園（エコタウン事業）	14
		商業（卸売・小売）施設計画	南信州	阿智村	農産物直売センター	15
	都市基盤整備計画	遠州	磐田市	遠州豊田PA周辺土地区画整理地内商業施設	16	
		東三河	豊橋市	豊橋東口駅南都市拠点開発事業	17	
			遠州	袋井市	にぎわい新都心まちづくりプロジェクト	18
				袋井市	JR袋井駅舎改築及び駅南周辺整備事業	19
		南信州	飯田市	中心市街地活性化基本計画策定事業	20	
道の道エココミュニティの形成	総合的な観光（文化・レクリエーション）開発計画	東三河	豊川市	とよかわイナリズム（豊川稲荷☆住む）～住んでいいじゃん！訪れてもいいじゃん！～	21	
			蒲郡市	蒲郡市観光ビジョン	22	
			新城市	DOS地域再生プラン	23	
			東栄町	「花祭りの里」交流ネットワーク計画	24	
			東栄町	魅力あふれる郷づくり 東栄町連帯で長生きプロジェクト	25	
		遠州	浜松市	てんはまエコミュージアム構想	26	
			浜松市	浜松地域ブランド「やらまいか浜松」（H17年度～）	27	
			袋井市	どまん中ふくろい振興事業	28	
		南信州	飯田市	観光をプラットフォームにした多産業連携	29	
			飯田市	杵原広場整備事業	30	
	観光施設計画	東三河	田原市	道の駅「赤羽根（仮称）」整備事業	31	
			遠州	浜松市	浜名湖フィッシャー・マンズ・ワーフ整備構想	32
				浜松市	常設「物産館」の整備	33
				磐田市	遠江国分寺跡整備事業	34
			湖西市	道の駅「潮見坂」整備事業	35	
南信州		阿智村	全村博物館構想プロジェクト	36		
東三河		豊橋市	豊橋総合スポーツ公園整備事業＊2	37		
		蒲郡市	スバ西浦モーターパーク	38		
		蒲郡市	みなとオアシスがまごおり事業	39		
		田原市	中央公園整備事業＊2	40		
	豊川市	東三河ふるさと公園整備（Ⅰ期Ⅱ期）＊2	41			
スポーツ・レクリエーション施設計画	遠州	浜松市	遠州灘海浜公園篠原地区整備事業（新水泳場整備等）＊2	42		
		浜松市	平口地区スポーツ施設等整備事業（拠点地区）＊2	43		
		磐田市	竜洋海洋公園整備事業	44		
		袋井市	（仮称）大日ほたるの里公園整備事業	45		
		御前崎市	マリナーパーク御前崎整備事業	46		
	南信州	飯田市	鈴岡城跡公園整備事業	47		
		松川町	むらやま公園整備事業	48		
		東三河	豊橋市	こども未来館整備事業＊2	49	
	文化施設計画	東三河	豊橋市	総合文化学習センター（仮称）整備事業（第1次）＊2	50	
			浜松市	新美術館整備事業＊2	51	
遠州			浜松市	てんはまエコミュージアム構想＊2	52	
遠州		浜松市	（仮称）本田宗一郎記念ものづくり伝承館建設事業	53		
		袋井市	（仮称）地域交流プラザ整備事業＊2	54		
都市基盤整備計画	遠州	浜松市	遠州鉄道鉄道路線の天竜二俣駅乗り入れ促進事業	55		
中山間地域を活かす流域モデルの形成	都市基盤整備計画	東三河	新居町	新居関所周辺整備事業	56	
			設楽町	設楽ダム事業	57	
			奥三河地域	水と森のふるさと奥三河再生計画	58	
		遠州	浜松市	浜名湖の水質保全事業（下水処理場の高度処理化）	59	
			浜松市	遠州灘海岸侵食対策事業	60	
	浜松市		天竜川ダム再編事業	61		
	住宅開発計画（50戸以上）	東三河	森町	太田川ダムの建設	62	
			東栄町	空き家活用定住促進プロジェクト	63	
			東栄町	三遠南信自動車道東栄IC周辺整備基本計画	64	
		南信州	飯田市	ニツ山団地公営住宅建替事業	65	
			飯田市	エコハウジングビレッジ整備事業	66	
	広域連携による安全・安心な地域の形成	都市基盤整備計画	遠州	浜松市	消防ヘリコプター整備事業	67
				菊川市	主要地方道掛川浜岡線バイパスの整備事業	68
			東三河	豊橋市	保健所・保健センター及び地域療育センター（仮称）等整備・運営事業	69
		福祉、医療計画	遠州	浜松市	遠州総合病院移転支援事業	70
浜松市				はるのしあわせ村整備事業（健康管理・診療施設等整備）	71	
南信州			磐田市	市立総合病院機能強化推進事業	72	
南信州		泰阜村	高齢者協同組合設立と高齢者共同住宅整備	73		

■ 図表 5-2 三遠南信地域プロジェクトの内容



第6章

三遠南信地域連携ビジョンの推進体制

6-1 組織体制

○三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA セナ）の設置

- ・ 平成 20 年度に「三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (San-En-Nanshin-Area-Relationship-Vision-Progressive-Conference=SENA セナ)」を設置し、連携ビジョンの推進と進捗管理を行う。
- ・ SEN A セナは、地域住民、大学、経済界、行政の代表により組織する。
- ・ 平成 23 年度までに、新・連携組織への移行を検討し、三遠南信サミットで合意する。
- ・ 事務局は浜松市に置く。

6-2 三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA セナ）の役割

○重点プロジェクトの推進

- ・ 地域連携ビジョンの「重点プロジェクト」の推進方法を検討する。
- ・ 重点プロジェクトを推進し、結果を三遠南信サミットに報告する。

○重点プロジェクトの評価・見直し（第Ⅱ期重点プロジェクトの提案）

- ・ 地域連携ビジョンの進捗状況进行评估し、第Ⅱ期重点プロジェクトを三遠南信サミットへ提案し、決定する。

○道州制等の国の動きに対する働きかけ

- ・ 全国の県境地域との連携を図りながら、国土形成計画や道州制等の国の広域的な地域づくりに対して、的確な働きかけを行う。

○NPO法人や企業等が取り組む連携活動に対する支援

- ・ 地域住民や企業が主体となった連携活動を促進するため、活動の継続に資する顕彰制度等の支援を行います。

○新・連携組織の検討

- ・ 三遠南信地域連携ビジョンに基づいた連携事業を恒常的に実施する新・連携組織のあり方を検討し、三遠南信サミットに提案する。
- ・ 新・連携組織のあり方について、国・県等の関係機関と調整する。

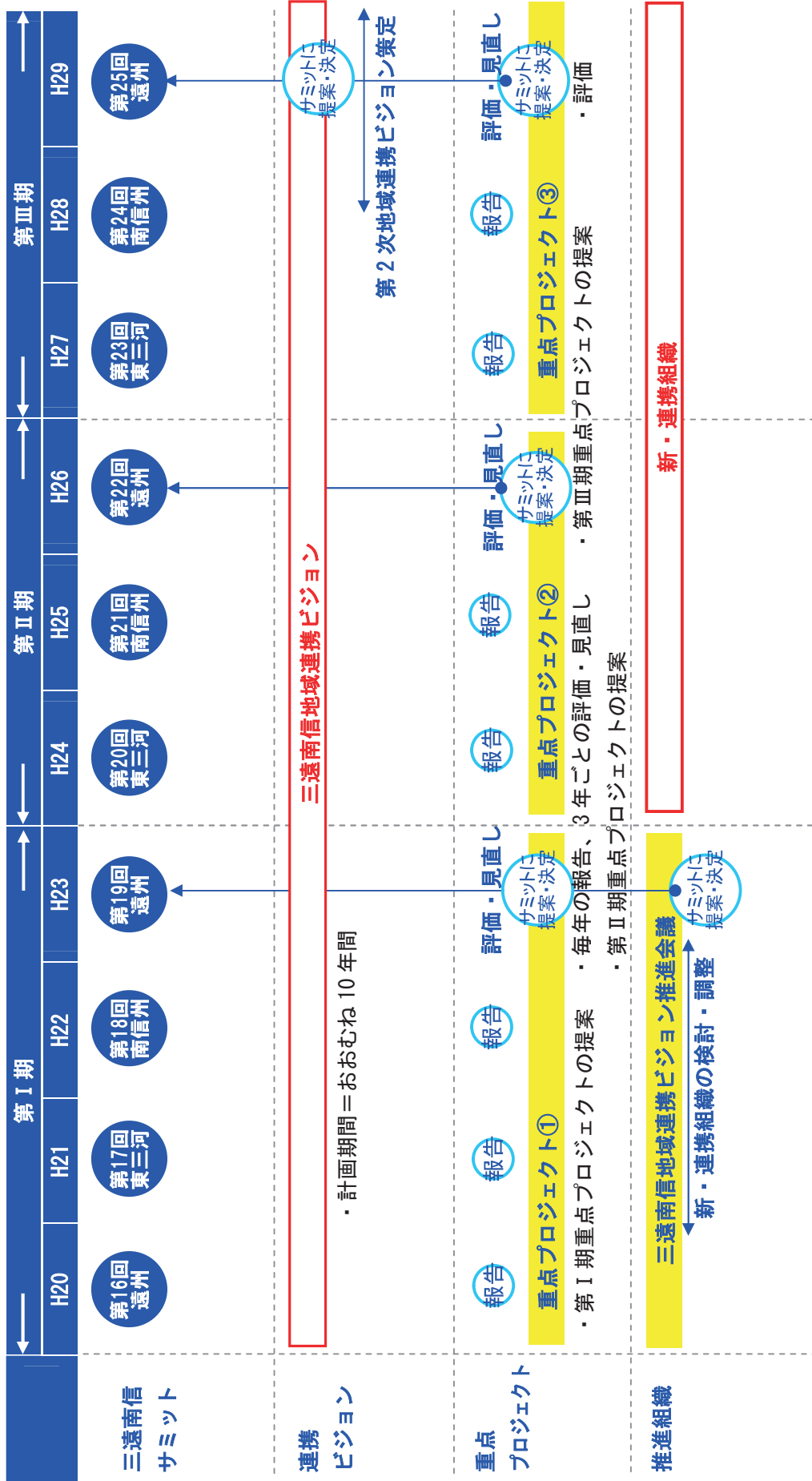
6-3 新・連携組織への移行

○新・連携組織への移行

- ・ 平成 24 年度に、三遠南信地域連携ビジョンに基づいた連携事業を行うため、恒常的な新・連携組織を設置する。

6-4 推進体制のスケジュール

◆ 三遠南信地域連携ビジョンを、以下のスケジュールで進める。





第7章

検討委員会名簿

【委員】

委員長	静岡文化芸術大学副学長	上野 征洋
副委員長	豊橋商工会議所専務理事兼事務局長	星野 君夫
副委員長	飯田市企画部長	尾曾 幹男
	豊橋技術科学大学地域協働まちづくりリサーチセンター長	大貝 彰
	飯田市歴史研究所顧問研究員 一橋大学大学院教授	森 武麿
	愛知大学三遠南信地域連携センター長	佐藤 元彦
	浜松商工会議所専務理事	坂本 裕
	天竜商工会事務局長	畑中 敏男
	新城市商工会事務局長	森川 重郎
	飯田商工会議所専務理事	尾澤 敏秀
	長野県商工会連合会南信支所長	佐々木 信高
	浜松市企画部長	齋藤 慎五
	磐田市企画財政部長	深澤 秀太郎
	豊橋市企画部長	堀内 一孝
	新城市企画部長	鈴木 久雄
	南信州広域連合事務局長	渡邊 嘉蔵
	NPO 法人三遠南信アミ	三宅 淳子
	NPO 法人がんばらまいか佐久間顧問	小原 侃之輔
	NPO 法人地域づくりサポートネット代表理事	田中 孝治
	NPO 法人穂の国森づくりの会事務局長	森田 実
	さくら WAVE 代表	田村 太一
	NPO 法人ふるさと南信州緑の基金事務局	三浦 方也
	南信州アルプスフォーラム	沖村 賢司

(平成 20 年 3 月現在)

【オブザーバー】

国土交通省中部地方整備局企画部広域計画課長
国土交通省中部運輸局企画観光部計画調整官
国土交通省北陸信越運輸局企画観光部交通企画課長

経済産業省関東経済産業局地域経済部地域振興課長
経済産業省中部経済産業局地域経済部地域振興課長

農林水産省関東農政局農村計画部農村振興課長
農林水産省東海農政局農村計画部農村振興課長

林野庁関東森林管理局天竜森林管理署長
林野庁中部森林管理局企画調整室企画官

国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所長
国土交通省中部地方整備局東海幹線道路調査事務所長
国土交通省中部地方整備局飯田国道事務所長
国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所長
国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所長
国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所長
国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所長
国土交通省中部地方整備局清水港湾事務所長

静岡県企画部企画監（地域政策担当）
静岡県建設部道路企画室長

愛知県地域振興部地域政策課長
愛知県建設部道路建設課長

長野県企画局企画課長
長野県土木部道路建設課長



年表

三遠南信のあゆみ

年	内 容
昭和 26 年	国土総合開発法による「天竜・東三河特定地域」に指定
昭和 27 年	「天竜・東三河特定地域総合開発計画」を策定
昭和 38 年	豊橋・浜松二眼レフ経済圏提案
昭和 47 年	三県知事会議で「三遠南信自動車道」の建設促進を決定
昭和 51 年	天竜奥三河地域総合調査 県境三圏域交流懇談会の発足
昭和 59 年	三遠南信自動車道建設促進期成同盟会の設立
昭和 60 年	三遠南信トライアングル構想を発表
昭和 62 年	三遠南信自動車道が四全総の高規格幹線道路網計画に位置付けられる
昭和 63 年	山岳ハイテクタウン構想提案 東三河 2015 構想提案
平成元年	三遠南信正副議長協議会の発足
平成 3 年	三遠南信地域整備計画調査委員会発足 三遠南信地域経済開発懇談会の発足
平成 4 年	三遠信伊勢地域開発合同会議の開催 三遠信山岳都市研究会の発足 山岳高原新都市開発構想を提唱
平成 5 年	愛知県東三河地方拠点都市地域の指定 長野県飯伊地方拠点都市地域の指定 三遠南信地域整備計画調査結果の公表 三遠広域200万都市圏構想発表
平成 6 年	第 1 回三遠南信サミットの開催 三遠南信自動車道矢筈トンネル・草木トンネルの開通 三遠南信地域整備連絡会議の発足 静岡県西部地方拠点都市地域の指定
平成 7 年	「三遠南信新首都構想」発表
平成 8 年	三遠南信地域交流ネットワーク会議の設立 第 1 回三遠南信教育サミットの開催
平成 9 年	三遠南信地域交流ネットワーク推進計画（三遠南信地域交流ネットワーク会議） 三遠南信地域経済開発協議会の設立 ゆめまるごと語ろう会（ゆめまる）発足
平成 17 年	三遠南信自動車道早期開通期成同盟会（三遠南信地域経済開発協議会）の設立 第 13 回三遠南信サミットにおいて「地域住民セッション」始まる
平成 18 年	第 14 回三遠南信サミットにおいて「道州制において三遠南信地域は同じ区割りになること」を決議 三遠南信地域連携ビジョン検討委員会始まる
平成 19 年	第 15 回三遠南信サミットにおいて三遠南信地域連携ビジョンを合意



データ

三遠南信地域の基礎データ

		面積 (k m ²)	人口 (人)	農業産出額 (百万円)	製造品出荷額等 (百万円)	年間商品販売額 (百万円)
東 三 河	豊橋市	261.36	372,479	47,380	1,173,899	1,198,207
	豊川市	150.43	159,563	17,400	1,090,648	320,280
	蒲郡市	56.81	82,108	7,510	216,983	177,703
	新城市	499.00	52,178	6,420	252,856	49,414
	田原市	188.58	66,390	72,440	2,002,948	101,502
	設楽町	273.96	6,306	3,210	6,279	3,830
	東栄町	123.40	4,347	510	2,548	3,330
	豊根村	155.91	1,517	110	781	656
	小坂井町	9.92	21,881	1,850	80,455	29,606
遠 州	浜松市	1,511.17	804,032	54,050	2,753,302	2,772,638
	磐田市	164.08	170,899	13,710	2,067,900	248,397
	袋井市	108.56	82,991	11,370	487,780	220,961
	湖西市	55.08	44,057	6,110	1,330,595	40,829
	森町	133.84	20,273	3,830	120,270	21,327
	新居町	13.47	16,937	910	41,119	17,025
	掛川市	265.63	117,857	20,360	1,446,915	232,125
	菊川市	94.24	47,502	10,690	258,488	63,395
	御前崎市	65.85	35,272	7,280	96,951	42,807
南 信 州	飯田市	658.76	108,624	9,460	261,719	267,874
	松川町	72.90	14,117	3,000	27,659	16,548
	高森町	45.26	12,976	2,910	24,539	26,257
	阿南町	123.35	5,972	620	6,266	3,585
	清内路村	44.16	777	20	X	449
	阿智村	170.31	6,771	920	16,035	4,852
	平谷村	77.40	688	90	X	441
	根羽村	89.95	1,253	170	1,263	793
	下條村	37.66	4,210	1,420	9,711	2,542
	売木村	43.55	735	110	333	302
	天龍村	109.53	2,002	110	234	605
	泰阜村	64.54	2,062	210	1,086	465
	喬木村	66.62	6,912	2,020	4,670	8,558
	豊丘村	76.85	7,068	1,880	12,103	4,465
	大鹿村	248.35	1,356	280	1,056	450
三遠南信地域全体		6,060.48	2,282,112	308,360	13,797,391	5,882,218

※製造品出荷額等の数値は、従業者4人以上の製造事業所が対象。三遠南信地域全体の数値は、秘匿値を含まない。

出典：面積（平成17年全国都道府県市区町村別面積調）

人口（平成17年国勢調査）

農業産出額（平成18年生産農業所得統計）

製造品出荷額等（平成17年工業統計）

年間商品販売額（平成16年商業統計）



用語解説

インターブロック (P7)

圏域間交流の新たな展開を誘導するため、既存のブロックを越えた各種の交流を促し、地域の活性化をもたらす広域的な交流圏のことを指す。

イノベーション (P13)

日本語では、技術革新、新機軸を意味する。モノ、仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、経済社会に大きなインパクトを与えることを指す。

ゲートウェイ (P17)

日本語では、門口、出入口、手段を意味し、ここでは交流や物流に関する地域の拠点となる港湾、空港を指す。

地域アイデンティティ (P22)

地域の独自性、主体性等を指し、他の地域とは異なる地域の特性や個性。地域のアイデンティティの確立とは、自らの地域はどのような地域かを認識し、どのように発展させたいかという自己変革の目標によってつくられる。

アクセシビリティ (P31)

英語 accessible 「(容易に) 接近できる、利用可能な、入手可能な」の名詞形で、利便性を意味し、ある場所や施設への移動等についての容易度を指す。

プラットホーム (P4 / P35)

鉄道駅にある列車へ乗り降りするための台状の場所を示すが、ここではその意味を拡大解釈し、様々な機能・インフラをつなぎ合わせ、サービスや事業活動等の促進を図るための共通基盤（基本部分）を指す。

セカンドスクール (P38)

小・中学生を対象として、授業の一部を自然に恵まれた場所に概ね1週間滞在する長期宿泊体験学習のこと。普段の学校生活（ファーストスクール）では体験し難い自然体験、農林漁業体験、共同生活体験などの多様な体験学習活動を通して、都市と農山村の交流を進めながら、学校教育の目標をより効果的に達成しようとするものである。

ポータルサイト (P38)

ポータルとは、Port（港）から派生した言葉で、門や入口を表し、インターネットの入り口となるサイトを指す。ウェブ、検索エンジン、リンク集を核として、多種多様な情報の提供、ブラウザから利用できるメールサービス、電子掲示板など、利用者がインターネットで必要とする機能を有するサイトである。

ソーシャルワーカー（P39）

精神的・肉体的・社会的な面で何らかの問題を抱えた人の相談相手となって、その人を指導し、その問題解決を行う人のこと。社会福祉学を基に社会福祉援助技術を用いて社会的に支援を必要とする人とその環境に働きかける専門職で、従来、主として社会福祉事業に携わる人の総称として使用されてきたが「社会福祉士及び介護福祉士法」の制定により、現在では社会福祉士を指し示す場合が多い。

スマートインター（P42）

スマートインターチェンジ（smart interchange、スマート IC）の略語で、ETC技術を活用した自動料金収受方式により、料金所の無人化、分散化を可能としたインターチェンジである。これによりインターチェンジの建設費・管理費のコストが縮減され、追加インターチェンジ等の整備が容易となりインターチェンジ周辺の地域活性化に貢献している。

産業クラスター（P45）

クラスターとはブドウの房を意味し、群や集団を指す。産業クラスターとは、産業集積を構成する機関間に、産学連携および企業間連携からなる多様な技術や知識のネットワークが形成され、イノベーションが生み出される状況をいう。

三遠南信地域連携ビジョン

2008年5月 第1刷

発 行：三遠南信地域交流ネットワーク会議
三遠南信地域経済開発協議会
事務局：浜松市企画課

2010年3月 第2刷

発 行：三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)
事務局：三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 事務局
〒430-8652 浜松市中区元城町103-2
浜松市企画課内 ☎053-457-2242

